

令和5年度大学教育再生戦略推進費  
「次世代のがんプロフェッショナル養成プラン」の申請について

代表校名 (連携大学名)	金沢大学 (信州大学、富山大学、福井大学、金沢医科大学、長野県看護大学) 計6大学
事業名 (全角20字以内)	北信のシームレスながん医療を担う人材養成

## 事業の構想等

【様式1】

1. 全体計画 ※事業の全体像を示した資料(ポンチ絵A4横1枚)を末尾に添付すること。

### (1) 事業の構想

#### ①事業の概要

##### 〈事業の概要〉(400字以内厳守)

長野、富山、石川、福井の4県は、超少子高齢化に加え診断から治療・終末期医療まで全医療を居住地域で受けるがん患者が多い特徴がある。本事業(次世代北信がんプロ)は、診断から治療・終末期医療まで質の高い医療を地域でシームレスに行う多施設・多職種連携医療人材を養成する。連携6大学が強みを合わせた相互補完的教育コース(正規課程14、インテンシブ10)を新設し、切れ目ないがん医療提供に必要な専門分野以外のがん医療分野の最新情報も学修したがん予防、病理診断、放射線・核医学治療、在宅緩和ケア等を担う人材、3期事業で必要性が示された小児・AYA世代がん経験者を支援する遺伝カウンセラーや腫瘍臨床心理士、新規免疫療法開発や個別化医療に必要なゲノム創薬・副作用対策を担う人材を養成する。オンライン教育や演習・講演会で多職種地域内連携を推進し、将来さらに少子高齢化が進む日本の地域がん医療の人材養成モデルを確立する。

#### ②テーマごとの課題と対応策

##### テーマ①：がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材養成

##### 課題・対応策

3期北信がんプロ(金沢大、信州大、富山大、福井大、金沢医大、石川看護大の6大学連携)では、長野、富山、石川、福井の4県を北信地域と名付け、北信地域が全国平均よりさらに少子高齢化が進んでいることから、このような超少子高齢化地域において活躍できる先進的がん医療人の養成を目指した活動を行った。その結果、正規課程コース充足率145%、インテンシブコース充足率130%を達成し延べ49名のがん関連資格取得者を輩出した。これらの活動を通じ、北信地域は超少子高齢化に加え、多くのがん患者が居住地域・勤務地域を中心とする医療圏で診断から治療・終末期医療までの全医療を受けるといった特徴を有することが把握された。この特徴は、地域内医療連携不足があれば、診断・治療開始の遅れや在宅医療への移行の遅れ等により、がん患者が不利益を被る可能性をはらんでいる。以上より、北信地域では、診断から治療・終末期医療まで質の高い医療を居住地域でシームレスに(切れ目なく)患者に提供する多職種チーム医療人材の養成が課題であることが顕在化した。

本事業では、北陸新幹線沿線で交流が可能な長野、富山、石川、福井の4県6大学が連携し、次世代北信がんプロとして、自分の専門領域以外のがん医療分野の最新情報も学んだ医療従事者を養成することにより、診断から治療・終末期医療まで患者が必要とする医療を速やかに提供できる体制を確立し、がん患者と家族が居住地域で安心して医療を受けられる環境の整備と人材育成モデル確立を目指す。

具体的には、がん予防・検診、画像診断、病理診断、標準的治療、副作用対策、早期からの緩和ケア、在宅医療を含む終末期医療に至るまでの最新情報を学修できるe-learning教材を6大学が連携して作成(がんプロオンライン教育に参加)する。また、3期事業で確立したWeb会議システムを活用した双方向性の研修会や演習(次世代北信オンコロジーセミナー、多職種協働型緩和ケアセミナー)を行う。これらを連携6大学の大学院生に加え北信地域の医療従事者が受講することで、多職種連携・施設間連携の意識を涵養する。

テーマ①では、在宅医療や身体的・精神的・社会的な痛みのケアに対するがん患者・家族からのニーズが高く、診断時からの緩和ケアの実施に加え在宅終末期医療の提供率の向上が課題である。また、金沢大には核医学診療科があり核医学診療を担う人材は比較的多いが、北信地域に放射線治療医や病理医は少なく、常勤の放射線治療医が不在のがん診療連携拠点病院が存在する。腫瘍循環器学や腫瘍腎臓病学、老年腫瘍学を専門とする医療従事者も少ない。

これらの課題に対し、富山大と福井大、金沢医大がそれぞれ緩和ケア、在宅医療、病理診断に習熟した医師・歯科医師を、長野県看護大が小児から高齢者まで対応できるがん看護専門看護師(CNS)を養成する正規課程コースを新設する。金沢大に医学物理士・放射線技師等、細胞検査士の正規課程コースをそれぞれ新設し、病理診断や放射線治療の質向上に必要な人材を養成する。

それ以外の専門医の志望者が少なく個々の正規課程コースの新設は困難なため、金沢大・富山大・福井大・金沢医大にこれら課題を包括的に学修できるインテンシブコースを新設し、放射線治療や病理診断、腫瘍循環器・腎臓病学、老年腫瘍学に習熟した人材を養成し、北信地域の上記医療レベルを底上げする。

### テーマに関する強み

3期北信がんプロ事業において、4県の全てのがん診療連携拠点病院と協力体制を構築している。また、がんプロ履修生で自らががんを経験した看護師が設立したAYA世代がん患者会(Colors)と市民公開講座を開催するなどの連携体制がすでに備わっている。本事業では6大学に加えてこれらと連携した教育が可能である。

緩和ケア・終末期医療に関し、富山大は実践的な緩和ケアマニュアルを附属病院Webで公開して全国どの医療施設でも閲覧可能とし、緩和医療の地域・施設間格差の解消に貢献してきた。福井大は在宅緩和医療・在宅栄養管理を担う人材を養成してきた。これらの実績を活かし、富山大・福井大が主体となり、デジタルツールを導入した在宅緩和医療教育を推進し、地域において診断・治療から終末期・在宅医療まで切れ目ないがん医療を実践できる多職種人材を6大学連携で養成する。

金沢医大は病理学教室の若手教授が病理医を積極的に養成している。また、3期がんプロ事業でも全国各地の大学・研究施設の病理医・研究者を招聘した腫瘍病理セミナーを2012年1月から2023年3月までの間に42回継続的に開催し、腫瘍病理の臨床・研究に関する最先端の情報提供を地域の病理医を含む臨床医や研究者に行っている。

金沢大には1973年に開講した核医学診療科があり、多くの核医学専門医を輩出してきた。3期に養成した医学物理士に加え核医学治療や病理細胞診を行う人材（医師・技師）を養成できる強みを有している。

本事業では令和4年度よりがん看護CNS養成を開始した長野県看護大が新たに参画した。長野県看護大にはがん看護CNSに加え老人看護CNSと小児看護CNS教育課程があり、小児・AYA世代から高齢者まで幅広い年代・ライフサイクルのがん患者に対応できる専門看護師の養成が可能である。また、すでに長野県の医療施設に加え、金沢大（小児看護）、山梨県立大（がんCNS）等と合同セミナーを令和4年度から毎月開催しており、本事業において多施設連携Webセミナーを開催する体制および実績を有している。

次世代北信がんプロにおいても、教育コースの履修者の受け入れ状況を含む進捗管理を学長連絡協議会で行うことが予定されており、本事業を実施する体制は整っている。

### テーマ②：がん予防の推進を行う人材養成

#### 課題・対応策

全国より高齢化が進んでいる北信4県では、平成27～29年にがん死亡者数がピークとなるも未だ減少には転じていない。これは高齢者のがん患者が多いことが大きな要因となっていると考えられ、**非高齢者に加えて高齢者のがん予防も行う、次世代型のがん予防を担う人材養成が課題**である。

一方で、がんゲノム医療拠点病院に指定されている金沢大、信州大、富山大では令和5年3月末までにエキスパートパネルを361回（1530症例、延べ9439名が参加）開催し、がんゲノム医療に携わる人材の教育を行ってきた。しかし、二次的所見が得られた患者へのケアやその家族に対するサバイバルを担う遺伝医療の専門医、認定遺伝カウンセラーのニーズが高まっていることや、養成された専門人材が地域を離れて都会に流出していることなどから、**北信地域に定着して遺伝医療を担う人材の不足が課題**となっている。

さらに、3期の北信がんプロにおけるがんデータベース事業では、北信4県の小児・AYA世代がんの診療実態が明らかとなり(Okura E et al, Jpn J Clin Oncol. 2022)、**希少がん患者・遺伝性がん患者・小児がん経験者に対する二次がん予防や就学・就労・メンタルヘルスに対する継続的なサポートがAYA世代における喫緊の課題**であることが浮き彫りになった。

テーマ②では、金沢大が次世代型個別化がん予防医療の医師・歯科医師向け正規課程コースを新設し、生活習慣の改善や感染症（ヘリコバクターピロリや肝炎ウイルス）回避による1次治療に加え、マルチオミックス解析とビッグデータを活用し、個々人の体質を知り予防するがんの0次予防を実践できる医師・歯科医師を養成する。

また、信州大と金沢大が、認定遺伝カウンセラーを養成する正規課程コースを新設し、がんゲノム医療に貢献するとともに、小児・AYA世代から高齢者まで世代を超えて、個別化予防～がんゲノム医療～遺伝性腫瘍～緩和ケアまでシームレスに見通した上でがん予防を推進できる人材を養成する。さらに、金沢大にがん経験者の精神的支援を担う腫瘍臨床心理士の正規課程コースを新設し、サイコオンコロジスト（腫瘍臨床心理士）を養成する。

インテンシブコースとして、がんゲノム医療に積極的に参画し貢献しうる臨床遺伝専門医を養成する本邦初の試みとして、信州大に臨床遺伝専門医を目指すコースを新設する。金沢大に、ライフイベントに伴う生きづらさの緩和（心理社会的ケア）やがんの予防再発を担うことができる看護師（サイコオンコロジーナース）を養成するコースを新設する。

<p><b>テーマに関する強み</b></p> <p>3期北信がんプロ事業において、4県のがん診療連携拠点病院の院内がん登録データから北信地域がんデータベースを構築し、地域のがん医療の特徴を明らかにするデータ解析を行い、成果を英語論文化する研究・教育を行ってきた実績（附属病院を有する5大学連携で、5つの英語論文を発表・掲載済み）があり、今期もデータを追加し解析研究活動を継続する。</p> <p>金沢大は、2016年に大学院先進予防医学研究科を設置し、オミックス解析とビッグデータを活用して個々人の体質を知り予防する0次予防から社会復帰を促進する3次予防までを包括した個別化予防を担う人材を非がん疾患対象に養成しており、地域との協力体制を構築（志賀町健康づくり推進の連携協定など）してきた。本事業では、その研究基盤をもとに活動をがんの予防に展開する。</p> <p>福井大は、生活習慣の改善やがん関連感染症の制御の重要性を教示するがん教育授業の福井大教育学部における正規授業化や、中高校の校長・教頭に対するがん教育実施など、特色あるがん教育によるがん予防活動を推進している。</p> <p>信州大は、全国の大学に先駆けて開設した遺伝子医療部門（遺伝子医療研究センター）において、がん遺伝子パネル検査と遺伝性腫瘍に対する遺伝カウンセリングの十分な実績を有し、臨床遺伝専門医、認定遺伝カウンセラーの人材養成を行ってきた。また、小児科長期フォローアップ外来と連携して遺伝性腫瘍症候群（HOPEFUL）パネルを独自開発し、小児科長期フォローアップ外来に通うAYA世代の小児がん経験者に対する、遺伝情報を用いた二次がん発症予防・早期発見プロジェクトを軌道に乗せた。</p> <p>金沢大は、医学系で遺伝カウンセラーの養成を、保健学系で精神看護・自殺予防などができる看護師の養成を開始しており、地域で不足している遺伝カウンセラーやサイコオンコロジストの養成が可能である。</p>
--

**テーマ③：新たな治療法を開発できる人材の養成**

<p><b>課題・対応策</b></p> <p>近年、免疫チェックポイント阻害薬（ICI）による免疫療法や遺伝子解析に基づいた分子標的治療により一定割合のがん患者の予後は改善された。しかしながら、がん種や標的分子の発現状況によりICIや分子標的治療が適応とならない、適応となっても奏効しない、あるいは一旦奏効しても耐性により再発する患者も多いのが現状である。したがって、<b>進行期がん患者の予後のさらなる改善には、新規分子標的の同定や新規がん免疫療法の開発、および薬剤耐性の克服が課題</b>である。</p> <p>一方で、重篤な副作用が発生しICIや分子標的治療を継続できない症例も存在するため、予測される副作用が発生しても適切に対処し重篤化を防ぐ、あるいは重篤な副作用が発生する患者を適切に予測し治療対象にしないことで重篤な副作用を予防する、<b>個別化医療としての副作用対策や副作用予防も課題</b>となっている。よって、新規免疫療法や分子標的療法、耐性克服治療の開発および副作用対策によるより良い個別化医療を担える人材の養成が必要である。</p> <p>テーマ③では、信州大に新規免疫療法を開発する遺伝子・細胞治療研究者の正規課程コースを新設し、新規CAR-T療法の研究開発を通じて、<b>がん免疫療法・遺伝子治療に精通した創薬人材および日本遺伝子細胞治療学会認定医・認定技術士を養成</b>する。CAR-T細胞シーズの探索研究に加えて、がんの基礎研究者・創薬ベンチャー・リサーチアドミニストレーターによる講義・演習や米国ペイラー医科大学との人材交流も積極的に取り入れ、リサーチマインドを持つ臨床研究医・医療従事者並びに国際競争力の高い創薬研究者の養成に取り組む。</p> <p>また、金沢大に分子標的薬のICIや耐性機構の解析により最適の後治療や治療シーケンスの開発研究を行うがん個別化医療開発コースを正規課程コースとして新設し、ICIによる免疫療法や分子標的薬の耐性克服研究を通じて、<b>最適の個別化医療を開発する能力を有する基礎・臨床研究医を養成</b>する。</p> <p>さらに、富山大と金沢大ががん専門薬剤師の正規課程コースを新設し、ICIやCAR-Tなどの免疫療法および分子標的治療における副作用対応や副作用予防に精通したがん専門薬剤師や個別化医療の開発研究を担う薬剤師を養成する。</p>
--

<p><b>テーマに関する強み</b></p> <p>信州大は、小児科、遺伝子・細胞治療研究開発センター、信州大発創薬ベンチャーが連携して、新規CAR-T療法の探索研究から治験製品製造・医師主導治験までをシームレスに行っており、<b>遺伝子・細胞創薬の国内拠点の1つ</b>として知られている。修士・博士課程では、治験の非臨床POCとなったCAR-T療法研究が行われ、多くの基礎研究者・臨床研究医を養成してきた。創薬ベンチャーやリサーチアドミニストレーターによる大学院教育、米国ペイラー医科大学細胞・遺伝子治療センターへの大学院生・ポスドクの派遣なども積極的に行ってきた。</p> <p>金沢大は、腫瘍内科、がん進展制御研究所、先端医療開発センターが連携して、分子標的薬耐性の克服を目指した基礎研究から医師主導治験までをシームレスに行っている。これらの活動などにより、石川県における日本臨床腫瘍学会のがん薬物療法専門医は現在27名と、<b>岡山県と並び全国トップの割合（人口100万人比）</b>で輩出してきている実績を有する。2017年に新設されたWPI Nano生命科学研究所では、一分子の蛋白質の形態や動態をリアルタイムで観察できる高速原子間力顕微鏡技術を活用し、細胞に存在する様々な分子をナノレベルで解析するユニークな研究を行っている。現在、がん細胞の治療標的分子に対する異分野融合研究も行われており、新規治療標的の同定や治療薬開発を行う基礎研究を行う上で、密に連携をとれる体制が整っている。</p> <p>また、金沢大と富山大では、3期がんプロ事業を通じて薬学系が連携してがん専門薬剤師を養成する体制が構築されている。さらに、副作用対策による個別化に加え、薬剤師による新規治療法の開発研究に対する機運が高まっており、科学者としての能力を豊富に備えた薬剤師を養成する基盤が整っている。</p>
--

## (2) 達成目標・評価指標

アウトプット	
・教育コースの立ち上げ時期	正規課程（令和6年4月）、インテンシブ（主に令和5年11月）
・教育コースの実施数	正規課程（14コース）、インテンシブ（10コース）
・教育コースの履修者数・修了者数	人数（年度・令和5/6/7/8/9/10）
正規課程コース 合計157名（医師・歯科医師70名、薬剤師14名、看護師18名、遺伝カウンセラー15名、医学物理士等25名、細胞検査士15名） 金沢大：がん予防・医師 15名(0/3/3/3/3/3)、個別化医療・医師 20名(0/4/4/4/4/4)、個別化医療・薬剤師 9名(0/1/2/2/2/2)、遺伝カウンセラー 10名(0/2/2/2/2/2)、サイコオンコロジスト・看護師 8名(0/2/1/2/1/2)、包括的放射線診療・医学物理士 25名(0/5/5/5/5/5)、細胞検査士 15名(0/3/3/3/3/3) 信州大：遺伝子・細胞治療研究者 10名(0/2/2/2/2/2)、認定遺伝カウンセラー 5名(0/1/1/1/1/1) 富山大：チーム医療習得・医師 10名(0/2/2/2/2/2)、がん治療薬研究・薬剤師 5名(0/1/1/1/1/1) 福井大：統合型がん医療専門医 10名(0/2/2/2/2/2) 金沢医大：がんゲノム個別化医療・医師 5名(0/1/1/1/1/1) 長野県看護大：がん看護CNS 10名(0/2/2/2/2/2)	
インテンシブコース 合計319名 金沢大：包括的がん医療医 32名(2/6/6/6/6/6)、個別化医療・薬剤師 12名(0/1/2/3/3/3)、サイコオンコロジーナーシング 8名(0/2/1/2/1/2) 信州大：臨床遺伝専門医 6名(1/1/1/1/1/1) 富山大：がんチーム医療実践 11名(1/2/2/2/2/2) チーム医療薬剤師 11名(1/2/2/2/2/2) 福井大：シームレス型緩和医療 62名(2/12/12/12/12/12)、シームレス型栄養管理 62名(2/12/12/12/12/12) 金沢医大：個別化医療・医師 5名(0/1/1/1/1/1) 長野県看護大：IPW包括的緩和 110名(10/20/20/20/20/20)	
・本事業に係るシンポジウムやセミナー等の実施数と参加者数 R5年度：オンコロジーセミナー（6大学と24がん拠点病院等）3回 50名/回、多職種協働型緩和ケアセミナー（6大学と24がん拠点病院等）3回 50名/回、合同市民公開講座（6大学）1回 200名 R6年度：オンコロジーセミナー（6大学と24がん拠点病院等）6回 50名/回、多職種協働型緩和ケアセミナー（6大学と24がん拠点病院等）6回 50名/回、合同市民公開講座（6大学）1回 200名、大学院生交流セミナー（6大学）1回 30名、他がんプロとの合同シンポジウム（12大学）1回 80名 R7年度：オンコロジーセミナー（6大学と24がん拠点病院等）6回 50名/回、多職種協働型緩和ケアセミナー（6大学と24がん拠点病院等）6回 50名/回、合同市民公開講座（6大学）1回 200名、大学院生交流セミナー（6大学）1回 30名、国際シンポジウム（10大学）1回 100名 R8年度：オンコロジーセミナー（6大学と24がん拠点病院等）6回 50名/回、多職種協働型緩和ケアセミナー（6大学と24がん拠点病院等）6回 50名/回、合同市民公開講座（6大学）1回 200名、大学院生交流セミナー（6大学）1回 30名、他がんプロとの合同シンポジウム（16大学）1回 100名 R9年度：R7年度と同じ、R10年度：R7年度と同じ	
アウトカム	
・受入れ目標人数	正規課程コース 157名、インテンシブコース 319名
・多職種連携セミナーの開催	次世代北信がんオンコロジーセミナー33回、多職種協働型緩和ケアセミナー33回
・がん関連資格取得者数	合計50名以上（腫瘍内科専門医10名、がん治療認定医5名、放射線治療専門医5名、医学物理士5名、がん看護専門看護師10名、認定遺伝カウンセラー20名等）
・履修者の地域医療機関への定着割合	50%以上（R10年度末にI期からの履修者進路調査を予定）

## (3) 事業の運営体制

### ①学内の運営体制

連携6大学の学長が参画する学長連絡協議会（年1回開催）を設置し、各大学の学長が本事業全体のガバナンスを発揮して事業の進捗管理、推進を担う。また、連携大学にはそれぞれ、各大学の学長がガバナンスを発揮する体制での次世代北信がんプロ運営委員会を設置し、学内における事業の運営を行う。

## ②学外との連携体制

各大学の運営委員会を統括した次世代北信がんプロ運営協議会（連携6大学、地域医療機関、医師会、自治体、患者会等を委員とする）が、学長連絡協議会によるガバナンスをもとに事業の運営を担う。さらに、事業運営のため、各大学の教育コース責任者等による総務委員会、教務委員会、がんデータベース委員会、広報委員会、多職種連携委員会を設置し、各業務の企画・立案、進捗状況の把握、問題解決などにあたる。これらの委員会を結ぶ統括コーディネーター（事業責任者）を金沢大に置くことで、連携を強化し事業を推進する。

なお、次世代北信がんプロ運営協議会では、事業の広報と意見収集も行い、活動内容の改善に努める。特に、北信4県の患者会との連携を密に行うが、がんプロ履修生で自らががんを経験した看護師が設立したAYA世代がん患者会(Colors)と市民公開講座を開催するなどの連携体制がすでに備わっている。

## ③評価体制

外部評価委員会（関連学会や患者会代表等の外部有識者）による評価を毎年行い、PDCAサイクルを回して事業計画を見直し改善を常に図る。また、専攻生や市民公開講座等のイベント参加者へのアンケート調査を行い、同様に事業内容改善を図る。

## （４）成果の普及や事業の継続

### ①成果の普及

東北大チームや九州大チーム等との合同教育シンポジウムを開催し、成果を他のがんプロチームに普及させる。また、金沢大がん進展制御研究所やWPIナノ生命科学研究所と連携して国立がん研究センターやがん研究会化学療法センター、ベイラー医科大等との国内・国際シンポジウムを開催し、人材交流や情報交換などを通じて成果を国内外の医療機関や研究機関に普及させる。

筑波大が主宰予定のがんプロオンライン教育に参加し、本チームが作成した教育コンテンツを全国の履修者が受講できるようにし、その教育内容を全国に普及させる。

6大学が大学ごとに市民公開講座を行う上に、年1回6大学6大学が持ち回りで主幹を担当し、主幹校の所在県で合同市民公開講座を実施し、成果を市民にも発信する。

医療職対象短期講習会として、長野県看護大ががん看護/家族看護研究会（1日：年6回）やがん関連CNS対象の講習会「がんアドバンス研修」（2日間、年1回）を開催する。

### ②事業の継続

3期北信がんプロ事業は、補助期間が終了した令和4年度は自己資金により活動を継続した。次世代北信がんプロ事業においても、北信地域で予防、診断・治療から終末期医療までをシームレスに行うために必要ながん医療人材養成は今後も必要なため、本事業で設置した教育コース、連携事業等は基本的に各大学の学長のガバナンスにおいて予算を確保して継続させる。

3期から継続している北信地域がんデータベース事業は、研究者個人の科研費獲得にも貢献したが、次世代北信がんプロとしても将来の日本の超少子高齢化社会の医療に対するニーズを洗い出す基盤事業と位置付け、改善・発展させながら継続する。そのために、自己資金の支出のみに依存せず、公的研究費獲得に向けた申請を継続的に行う。

### ③第3期がんプロの継続状況

番号	教育プログラム・コース名	令和4年度の 学生募集の有無
1	先進的個別化医療コース	○
2	個別化薬物療法コース	○
3	高度化医学物理士コース	○

## 2. 年度別の計画

### (1) 年度別の計画

R5年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 7月 学長連絡協議会、次世代北信がんプロ各種委員会（総務委員会, 教務委員会, がんデータベース委員会, 企画委員会, 広報委員会）の開催、事業計画（中期、年度）協議</li> <li>② 7月～各教育コース設置に伴う関係規定等の整備に着手</li> <li>③ 7月 ホームページの立ち上げ</li> <li>④ 8月 e-learning教材作成開始</li> <li>⑤ 8月 次世代北信がんプロ運営協議会の開催（事業計画承認・決定）</li> <li>⑥ 8月 北信地域がんデータベース更新に着手</li> <li>⑦ 11月 次世代北信オンコロジーセミナー（Web会議方式）の開始（1回/2月）</li> <li>⑧ 11月 教育コースの一部開始（インテンシブコースの一部）</li> <li>⑨ 11月 6大学合同市民公開講座の開催</li> <li>⑩ 3月 外部評価委員会の開催</li> </ul>
R6年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 4月 学長連絡協議会、各種委員会の開催（事業計画等の協議）</li> <li>② 4月 次世代北信オンコロジーセミナー（Web会議方式）の開始（1回/月）</li> <li>③ 5月 次世代北信がんプロ運営協議会の開催（事業年次計画の承認・決定）</li> <li>④ 10月 大学院生交流セミナーの開催</li> <li>⑤ 11月 6大学合同市民公開講座の開催</li> <li>⑥ 1月 他がんプロチームとの大学院生交流合同シンポジウムの開催</li> <li>⑦ 3月 外部評価委員会の開催</li> </ul>
R7年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>①～③ 前年度事業と同じ</li> <li>④ 10月 大学院生交流セミナー</li> <li>⑤ 11月 6大学合同市民公開講座の開催</li> <li>⑥ 1月 国際シンポジウムの開催</li> <li>⑦ 3月 外部評価委員会の開催</li> </ul>
R8年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>①～③ 前年度事業と同じ</li> <li>④ 11月 6大学合同市民公開講座の開催</li> <li>⑤ 1月 他がんプロチームとの大学院生交流合同シンポジウムの開催</li> <li>⑥ 3月 外部評価委員会の開催</li> </ul>
R9年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>①～③ 前年度事業と同じ</li> <li>④ 10月 大学院生交流セミナー</li> <li>⑤ 11月 6大学合同市民公開講座の開催</li> <li>⑥ 1月 国際シンポジウムの開催</li> <li>⑦ 3月 外部評価委員会の開催</li> </ul>
R10年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>①～③ 前年度事業と同じ</li> <li>④ 11月 6大学合同市民公開講座の開催</li> <li>⑤ 1月 国際シンポジウムの開催</li> <li>⑥ 2月 外部評価委員会の開催</li> <li>⑦ 3月 事業成果報告会の開催</li> </ul>
R11年度 [補助期間 終了後]	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 4月 学長連絡協議会、各種委員会の開催（事業計画等の協議）</li> <li>② 4月～次世代北信地域がんデータベース関連会議の定期開催（改善・発展のための協議）</li> </ul>

総表

1. 参加大学の状況

拠点病院の指定やがんの特化した講座設置等に該当する場合は○を、補助事業期間中に指定取得や設置等を計画している場合は□を選択してください。(既に講座があり、追加を計画している場合には■を選択してください。)

大学名	がん診療連携拠点病院					小児がん診療拠点病院	がんゲノム医療病院			がんの特化した講座				バイオバンク	大学ごとのR5補助金配分額(千円)
	都道府県	地域(高度型)	地域	地域(特例型)	特定領域		がん診療拠点病院	中核拠点	拠点	連携	薬物療法	放射線治療	緩和医療		
金沢大学	○									○					37,470
信州大学	○									○	○	○		○	8,000
富山大学		○								○		○		○	8,000
福井大学			○						○				○		8,000
金沢医科大学			○						○	○					8,000
長野県看護大学												○			8,000

がんの特化した講座の名称	臨床腫瘍学(富山大学)、腫瘍病態治療学講座(福井大)、腫瘍内科学講座(金沢医科大学)、がん進展制御研究所腫瘍内科学講座(金沢大学)
バイオバンクの保存試料数(がん関係)	約2,000人分(富山大学)

2. 教育プログラム・コース一覧

(1) 大学院正規課程コース

大学名	テーマ	教育プログラム・コース名	養成目標人数合計	養成する職種に○、がん専門資格と連動している場合◎を選択					
				医師	歯科医師	薬剤師	看護師	その他の医療職	医療職以外
金沢大学	テーマ②	次世代がん予防エキスパート養成コース	15	○	○				
金沢大学	テーマ③	がん個別化医療開発コース	20	◎	○				
金沢大学	テーマ③	がん薬物療法ファーマシストサイエンティストコース	9			◎			
金沢大学	テーマ②	次世代認定遺伝カウンセラー養成コース	10					◎	
金沢大学	テーマ②	サイコオンコロジストコース	8				○	○	
金沢大学	テーマ①	包括的な放射線診療を見据えた医学物理士コース	25					◎	
金沢大学	テーマ③	細胞検査士資格取得コース	15					◎	
信州大学	テーマ②	シームレス型がん予防推進認定遺伝カウンセラー養成コース	5				◎	○	
信州大学	テーマ③	遺伝子・細胞治療研究者養成コース	10	◎	◎	○		◎	◎
富山大学	テーマ①	がん患者チーム医療修得コース	10	◎	○		○	○	○
富山大学	テーマ③	がん治療において地域医療に貢献できる薬剤師および新規がん治療薬開発研究者養成コース	5			◎			
福井大学	テーマ①	統合型がん医療専門医コース	10	◎					
金沢医科大学	テーマ③	がん遺伝子に基づく個別化医療を担うがん専門医療人養成コース	5	◎					
長野県看護大学	テーマ①	ライフステージと共生の包括ケアコース	10				◎	○	
合計			157						

(2) インテンシブコース ※コースワークで複数の科目等を履修するものとし、1日～数日間の講習会は除く。

大学名	テーマ	教育プログラム・コース名	養成目標人数合計	医師	歯科医師	薬剤師	看護師	その他の医療職	医療職以外
金沢大学	テーマ①	包括的がん治療医養成コース	32	◎	○				
金沢大学	テーマ③	次世代がん薬物療法最適化薬剤師コース	12			◎			
金沢大学	テーマ②	サイコオンコロジーナーシングコース	8				○	○	



信州大学	テーマ②	シームレス型がん予防推進臨床遺伝専門医養成コース	6	○					
富山大学	テーマ①	がんチーム医療実践コース	11	◎	○		○	○	○
富山大学	テーマ③	がん治療において地域・チーム医療の要となる薬剤師養成コース	11			◎			
福井大学	テーマ①	シームレス型緩和医療コース	62	○	○	○	○	○	
福井大学	テーマ①	シームレス型栄養管理コース	62	○	○	○	○	○	
金沢医科大学	テーマ①	分子病理の視点からゲノム個別化医療を推進するがん専門医療人養成コース	5	○					
長野県看護大学	テーマ①	IPW包括的緩和ケアコース	110	○		○	◎	○	○
合計			319						

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科医学専攻						
教育プログラム・コース名	次世代がん予防エキスパート養成コース（大学院正規課程コース）						
対象職種・分野	医師、歯科医師						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	マルチオミックスと臨床情報による医療ビッグデータに基づく効率的かつ個別化されたがん予防医療を推進できる医師・歯科医師を養成する。						
修了要件・履修方法	<p>&lt;修了要件&gt;次世代北信がんプロフェッショナル授業科目10単位を含む30単位以上を取得し、研究論文が学位審査に合格すること。</p> <p>&lt;履修方法&gt;e-learning教材、Web会議によるセミナー、演習等で履修する。</p>						
履修科目等	<p>&lt;選択必修科目&gt;分子生物学入門（1単位）、分子腫瘍学特論、ほか3科目</p> <p>&lt;選択科目&gt;がんゲノム学特論（1単位）、小児・AYA世代・希少がん特論（1単位）、在宅緩和ケア特論（1単位）、老年医療学特論（1単位）、がんライフステージ演習（1単位）、<u>がん医療現場の課題科目（1単位）</u>、<u>がん予防推進科目（1単位）</u>、<u>新規治療法開発科目（1単位）</u>ほか5科目</p>						
がんに関する専門資格との連携	がん予防エキスパート（日本がん予防学会）を研修する施設として連携活動する。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	喫煙、飲酒、肥満、糖尿病などは多くのがんの危険因子であり、生活習慣に起因する。また、ヘリコバクター・ピロリや肝炎ウイルスなどの感染症に起因するがんは、有効な治療薬により発がんリスクを大きく低下させることができる。本コースは、発がん予防が可能ながんについて、その特性を臨床情報およびマルチオミックスデータから解析、発がん機序や予防法の開発研究を行う能力を養う点に独創性がある。また、大規模コホート研究を行っている研究者（先進予防医学研究科との連携）の講義を受講できることにも特色がある。						
指導体制	本コースでは、金沢大学先進予防医学研究科や金沢大学の遺伝子解析、個別化医療研究のエキスパートやがんプロ卒業生が、実際に進行しているプロジェクトを通じたon-the-jobトレーニングを行う。また、e-learningやWeb会議セミナー等も活用して幅広く能率的に指導する。指導方法の標準化について教務委員会で検討する。						
修了者の進路・キャリアパス	本コースで養成された人材は、がん予防エキスパートとして世界水準の知識・技能・研究力を有し、国民に正しい知識を伝えることが可能である。将来、医学教育機関等のスタッフやがん診療連携拠点病院等の地域基幹病院におけるがん予防研究、医療のリーダーとして貢献することができる。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
		3	3	3	3	3	15
受入目標人数設定の考え方・根拠	石川県内の5つのがん拠点病院にがん予防エキスパートをそれぞれ最低1人ずつ配置することを目標に、今後5年間でそれぞれ5人養成する。過去の大学院志願者数及び入学ニーズ調査から毎年度3人程度の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を15人と設定。						

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科医学専攻						
教育プログラム・コース名	がん個別化医療開発コース（大学院正規課程コース）						
対象職種・分野	医師、歯科医師						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬（ICI）による治療後にも最適の治療を提供する個別化医療の開発に向けた基礎・臨床研究を担う医師及び歯科医師を養成する。						
修了要件・履修方法	<p>&lt;修了要件&gt;次世代北信がんプロフェッショナル授業科目10単位を含む30単位以上を取得し、研究論文が学位審査に合格すること。</p> <p>&lt;履修方法&gt;e-learning教材、Web会議によるセミナー、演習等で履修する。</p>						
履修科目等	<p>&lt;選択必修科目&gt;分子生物学入門（1単位）、分子腫瘍学特論、ほか3科目</p> <p>&lt;選択科目&gt;がんゲノム学特論（1単位）、小児・AYA世代・希少がん特論（1単位）、在宅緩和ケア特論（1単位）、老年医療学特論（1単位）、がんライフステージ演習（1単位）、<u>がん医療現場の課題科目（1単位）</u>、<u>がん予防推進科目（1単位）</u>、<u>新規治療法開発科目（1単位）</u>ほか5科目</p>						
がんに関する専門資格との連携	腫瘍内科専門医（日本臨床腫瘍学会）の研修施設として認定。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	現在の個別化医療は、分子標的治療やICIによる免疫療法の使い分けが主体であるが、多くのがん患者は耐性のため治癒に至らず後治療を必要とする。本コースでは、耐性機構の解析により最適の後治療や治療シーケンスの開発研究を行う能力を養う点に独創性がある。薬剤耐性における最先端の基礎・臨床研究を行っている研究者（がん進展制御研究所との連携）の講義を受講できることにも特色がある。						
指導体制	本コースでは、金沢大学がん進展制御研究所や金沢大学の遺伝子解析、個別化医療研究のエキスパートやがんプロ卒業生が、実際に進行しているプロジェクトを通じたon-the-jobトレーニングを行う。また、e-learningやWeb会議セミナー等も活用して幅広く能率的に指導する。指導方法の標準化について教務委員会で検討する。						
修了者の進路・キャリアパス	本コースで養成された人材は、がん個別化医療における世界水準の知識・技能・研究力を有し、腫瘍内科専門医の取得が可能である。将来、医学教育機関等のスタッフやがん診療連携拠点病院等の地域基幹病院におけるがん個別化医療やがんチーム医療のリーダーとして貢献する。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
		4	4	4	4	4	20
受入目標人数設定の考え方・根拠	過去の大学院志願者数及び入学ニーズ調査から毎年度4人程度の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を20人と設定。さらに、石川県内の5つのがん拠点病院にがん薬物療法専門医（新専門医制度では腫瘍内科専門医）をそれぞれ最低1人ずつ配置することを目標にし、今後5年間で5人の腫瘍内科専門医取得者を養成する。						

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科薬学専攻
教育プログラム・コース名	がん薬物療法ファーマシストサイエンティストコース（大学院正規課程コース）
対象職種・分野	薬剤師（医薬保健学総合研究科大学院学生）
修業年限（期間）	4年
養成すべき人材像	<p>がん・緩和薬物療法の近年の進歩はめざましく、免疫チェックポイント阻害薬を始め多くの薬剤が開発されてきている。</p> <p>更にこの流れを加速し新たな治療法を開発するために、研究能力醸成を主とする大学院において、更に①疾患に関する最新情報を把握し②多様な解析手法を理解したうえで、③がん研究者との橋渡しができる臨床的視野を兼ね備えた人材養成を行う。</p> <p>これまでのがんプロフェッショナル養成事業で養成してきた、がん患者の多様性に応じた個別化薬物療法の処方支援、有害事象回避する手法を駆使できる人材に加え、新たな治療法を創出、最適化する意欲があり、先進的に取り組める人材。</p>
修了要件・履修方法	<p>&lt;修了要件&gt;北信がんプロフェッショナル授業科目5.5単位〔必修科目2単位、選択必修科目(演習)0.5単位を含む〕を修得すること。</p> <p>&lt;履修方法&gt;e-learning教材、オンラインによるセミナー、演習等で履修する演習科目は、金沢大学医薬保健研究域薬学系又は附属病院を中心に医療施設と共同で実施する場合がある。</p>
履修科目等	<p>&lt;必修科目&gt;分子腫瘍学特論、臨床統計学特論（各1単位）</p> <p>&lt;選択必修科目&gt;がん薬物療法先端演習（薬剤経済学等）（0.5単位）、多職種協働型緩和ケア演習（0.5単位）、オンコロジーセミナー（0.5単位）</p> <p>&lt;選択科目&gt;腫瘍薬物学特論（1単位）、がん緩和医療学特論（1単位）、がんゲノム学特論（1単位）、小児・AYA世代・希少がん特論（1単位）、在宅緩和ケア特論（1単位）、老年医療学特論（1単位）ほか3科目</p> <p>がんプロ オンライン教育科目〔がんゲノム科目（1単位）、小児・AYAがん科目（1単位）、希少がん科目（1単位）、ライフステージ科目（1単位）、がん医療現場の課題科目（1単位）、がん予防推進科目（1単位）、新規治療法開発科目（1単位）〕</p>
がんに関する専門資格との連携	本コース修了者は、本プログラムを基盤として、日本医療薬学会が認定するがん専門・指導薬剤師や日本緩和医療薬学会が認定する緩和薬物療法認定薬剤師の資格取得が可能となる。また、薬局薬剤師として、日本医療薬学認定の「地域薬学ケア専門薬剤師（がん）」の取得に繋がる。
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	<p>薬剤師資格を持つ博士課程進学者は、6年制導入後、急激に減少に、このままでは将来の薬学教育、研究を担う人材が枯渇する危機的状況である。6年制薬学生の進学率の低さの一因として、臨床志向の強い学生が博士課程進学によって臨床能力を身につける機会が失われていることがある。そこで、本学では、大学院在学時から臨床に触れられる機会として、3期北信がんプロまでには、がんプロフェッショナル事業に参加し、がんに関する臨床教育を並行して受講できるコースを充実してきた。それらの成果を踏まえ、研究者としての資質を更に高めるためには、高めてきた臨床能力を更に高めるとともに、博士課程において、がんをはじめとする医薬品、薬物療法の創出のための研究能力との融合をはかる必要がある。そこで、臨床における疾患等の最新の知識に触れ、臨床の制限に応じた最新の解析手法を学び続ける能力を付与するコースを新たに設置する。本コースでは、基礎⇒臨床⇒融合とこれまでの大学院での基礎、臨床教育の実績のある本学において、さらにそれらを融合、発展し、がん薬物療法に特化した専門能力を向上させるための4年制博士課程教育の充実をはかり薬剤師能力と研究能力を併せ持ついわゆるファーマシストサイエンティスト(Pharmacist-Scientist)の養成を目指す点に独創性、優位性がある。そして、科学的根拠に基づく臨床エビデンスに合わせて薬剤経済学の解析手法を応用することができる科目を設置し、高度な科学者としての能力を備えた薬剤師を育成することに新規性がある。</p>
指導体制	がん・緩和薬物療法に関連する専門資格を持つか、経験豊富な金沢大学の薬学系教員・薬剤師が、臨床現場等で指導に当たる。

<b>修了者の進路・キャリアパス</b>	病院薬剤師として勤務し、日本医療薬学会認定のがん薬物療法認定薬剤師を目指す。また、将来的には、がん専門認定薬剤師やがん専門指導薬剤師の取得をす。また、薬局薬剤師として、薬局薬剤師として、日本医療薬学認定の「地域薬学ケア専門薬剤師（がん）」の取得を目指す。未だ、これらの専門薬剤師数は少なく、かつ学位を取得したものは希であり、将来の大学病院をはじめとする病院薬剤部長としての期待がされる。また、厚生労働省等の行政職に勤務し、日本の薬学関連の医療を担うことが期待される。これらの多様な人材を輩出することにより、がん薬物療法開発の共創的推進が期待される。						
<b>受入開始時期</b>	令和6年4月						
<b>受入目標人数</b> <small>※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。  <small>※新規に設置したコースに限る。</small> </small>	<b>R5年度</b>	<b>R6年度</b>	<b>R7年度</b>	<b>R8年度</b>	<b>R9年度</b>	<b>R10年度</b>	<b>計</b>
<b>受入目標人数設定の考え方・根拠</b>	本学大学院医薬保健学総合研究科薬学専攻のの入学定員が現在4名で、順次定員増を図る予定である。また、第3期における本科コース（薬学）の受入れ状況を鑑み、受入れ目標人数を毎年2名を目標と設定した。						

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科医科学専攻						
教育プログラム・コース名	次世代認定遺伝カウンセラー養成コース（大学院正規課程コース）						
対象職種・分野	医薬保健学総合研究科 医科学専攻（修士課程）						
修業年限（期間）	2年						
養成すべき人材像	がんゲノムや遺伝性腫瘍医療におけるパネル検査クリニカルシーケンスの意義を理解した上で、マルチオミックスや全ゲノムと臨床情報による医療ビッグデータに基づく効率的かつ個別化されたがん予防医療を推進できる認定遺伝カウンセラーを養成する。						
修了要件・履修方法	<p>&lt;修了要件&gt;次世代北信がんプロフェッショナル授業科目を含む30単位以上を取得し、研究論文が学位審査に合格すること。</p> <p>&lt;履修方法&gt;e-learning教材、Web会議によるセミナー、演習等で履修する。</p>						
履修科目等	<p>&lt;選択必修科目&gt;分子腫瘍学（1単位）ほか3科目</p> <p>&lt;選択科目&gt;がんゲノム学特論（1単位）、小児・AYA世代・希少がん特論（1単位）、在宅緩和ケア特論（1単位）、老年医療学特論（1単位）、がんライフステージ演習（1単位）、<u>がん医療現場の課題科目（1単位）</u>、<u>がん予防推進科目（1単位）</u>、<u>新規治療法開発科目（1単位）</u>ほか5科目</p>						
がんに関する専門資格との連携	金沢大学大学院医科学専攻(修士課程)は認定遺伝カウンセラー（日本遺伝カウンセリング学会・日本人類遺伝学会）の研修施設として認定。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	金沢大学では令和2年度にコースを開設し、令和3年度卒業した1名が認定遺伝カウンセラーに認定された。本コースはこの地域に密着した診療科横断的連携に特色があり、新規の遺伝性腫瘍の候補が挙がった際に遺伝カウンセリングに繋げるアプローチへの連続性がある。がんゲノム外来やエキスパートパネルへの参加を活発化させ、がんゲノム医療、遺伝性腫瘍診療の一翼を担う医療人を育成する。						
指導体制	本コースでは、金沢大学の臨床遺伝専門医や認定遺伝カウンセラーが、実際に進行しているプロジェクトを通じたon-the-jobトレーニングを行う。また、e-learningやWeb会議セミナー等も活用して幅広く能率的に指導する。指導方法の標準化について教務委員会で検討する。						
修了者の進路・キャリアパス	本コースで養成された人材は、将来認定遺伝カウンセラーの資格取得が可能であり、将来医学教育機関等のスタッフやがん診療連携拠点病院等の地域基幹病院におけるがんゲノム医療や遺伝性腫瘍診療の一翼を担う医療人として地域医療に貢献する。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
		2	2	2	2	2	10
受入目標人数設定の考え方・根拠	石川県内の5つのがん拠点病院に認定遺伝カウンセラーをそれぞれ最低1人ずつ配置することを目標に、今後5年間でそれぞれ1人以上を養成する。過去の大学院志願者数及び入学ニーズ調査から毎年度2人程度の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を10人と設定。						

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科保健学専攻						
教育プログラム・コース名	サイコオンコロジストコース（大学院正規課程コース）						
対象職種・分野	看護師/公認心理師・看護学						
修業年限（期間）	2年						
養成すべき人材像	がんの病態や治療の多様化に伴って複数の専門医療や制度の狭間に生じる当事者のニーズに着目して、トータルケアならびに各専門医療をつなぐための支援を実施し、ライフイベントに伴う生きづらさの緩和やがんの再発予防を担うことができるスペシャリストを養成する。また、がんの症状や治療、サバイバーとしての生きづらさによって生じる不眠・不安・悲嘆・抑うつ・せん妄などの心理学的・精神医学的反応への適切なケアの実施、ならびに当事者の意思決定支援やLifeの質の向上によって、当事者が孤立しないような心理社会的ケアを担うことができる人材を養成する。						
修了要件・履修方法	本教育コースで定める科目について、必修科目5単位ならびに選択科目7単位以上を履修し、試験に合格すること。						
履修科目等	<必修科目> サイコオンコロジー特論(1単位)、看護心理学特論(2単位)、次世代がんプロセミナー(2単位) <選択科目> コンサルテーション論(2単位)、医療統計学特論(2単位)、がん緩和医療学特論(1単位)、腫瘍薬物学特論(1単位)、腫瘍放射線医学特論(1単位)、精神看護学特論(2単位)、慢性・終末期看護技術学特論(2単位)、小児環境発達学特論(2単位)、臨地マネジメント演習(4単位/120時間)、がん医療現場の課題科目(1単位)、がん予防推進科目(1単位)、新規治療法開発科目(1単位)						
がんに関する専門資格との連携	なし						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	看護師のためのサイコオンコロジスト養成コースは前例がなく、看護学と心理学あるいは精神医学の専門性を融合した教育を展開する。受講のしやすさと専門性担保の視点から、e-learningと対面の講義ならびに臨地演習を組み合わせ開講する。						
指導体制	附属病院は、都道府県がん診療拠点病院であり、オンコロジーの専門医や看護師、精神科リエゾンチームの専門医や看護師などが活躍している。大学院専任教員と臨地のがん看護ならびにリエゾン精神看護の専門家が協働して指導を行うことで、サイコオンコロジーの視点を強化した教育が可能である。						
修了者の進路・キャリアパス	本コースの履修によって、修士の学位ならびにサイコオンコロジーの専門的視点が修得でき、がん患者あるいはサバイバーに対するカウンセリングやがん治療・ケアのコーディネーターとしてのキャリアパスが期待される。 さらに、がん診療拠点病院ではすでにがん看護に関する認定看護師を有する人が多く、本コースを履修することで、修士の学位の取得ならびに心理社会的ケアスキルのブラッシュアップにつながるため、組織横断的な活動や独立したポジションの獲得などが期待される。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
		2	1	2	1	2	8

受入目標人数設定  
の考え方・根拠

北信圏域の4つの県がん診療拠点病院ならびに石川県内の4つの地域がん診療連携拠点病院にサイコオネロジストを最低1人ずつ配置することを目標にすると、今後5年間で8人養成する。また、過去のがん看護に関する研究テーマを希望する院生数から毎年度1～2人の受講者が見込まれるため、受入れ目標人数を8人と設定。



## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科保健学専攻						
教育プログラム・コース名	包括的な放射線診療を見据えた医学物理士コース（大学院正規課程コース）						
対象職種・分野	診療放射線技師, 医学物理士, 多職種						
修業年限（期間）	2年						
養成すべき人材像	がん診療における放射線分野の役割は代表的な放射線療法のみならず、放射性同位元素を含む薬剤による内服治療や免疫療法を併用した場合など進化が続いている。また近年、患者の精神的ケアも医療スタッフ全員が理解しておく重要な要素となっている。そのため、患者の精神的ケアも含めそれら放射線診療に関わる包括的な素養を持つ人材を養成する。						
修了要件・履修方法	必修科目13単位、選択科目1単位以上を習得すること。						
履修科目等	<必修科目> 医学物理学特論 1単位, 放射線医療特論 1単位, サイコオンコロジー特論 1単位, 放射線治療安全技術学特論 2単位, 放射線治療安全技術学演習 4単位, 臨床マネジメント演習 4単位 <選択科目> 新3科目〔がん医療現場の課題科目 1単位、がん予防推進科目 1単位、新規治療法開発科目 1単位〕を含む1科目 1単位以上						
がんに関する専門資格との連携	放射線治療専門放射線技師(日本放射線治療専門診療放射線技師認定機構), 医学物理士(医学物理士認定機構)						
教育内容の特色等 (新規性・独創性等)	社会人院生にも受講しやすいようにe-learningを併用した講義を用意する。他分野の講義も必修科目としたコースとすることでチーム医療的視点を持たせるカリキュラムとした。						
指導体制	大学院教育の中で研究室を基準とする指導体制を基礎とし各分野を専門する教員が行う講義を中心にカリキュラムを編成したことで、多数の教員による指導を受けられるよう指導する。						
修了者の進路・キャリアパス	修了者は博士前期2年目において修了見込みとして医学物理士認定試験を受験できる。修了見込みもしくは修了後に認定試験を合格し、更に認定機構が認める必要単位を集め申請することで医学物理士として認定される。また、5年間の放射線治療部門での臨床経験を得ることで放射線治療専門技師の認定試験を受けることができる。 いずれも放射線治療を中心とした部署に従事することになり、本コースで習得した知識・技能を活用できる。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
		5	5	5	5	5	25
受入目標人数設定の考え方・根拠	今年度までのがんプロコースの登録者において、例年5名程度の履修者がいるため、受入れ目標人数を5人と設定。						

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科保健学専攻						
教育プログラム・コース名	細胞検査士資格取得コース（大学院正規課程コース）						
対象職種・分野	臨床検査技師						
修業年限（期間）	2年						
養成すべき人材像	細胞検査士により実施される細胞診検査は、がん診断及びがん検診に高い信頼を持つ。本コースは細胞検査士資格の取得を主要な目的とする教育プログラムであるが、正確な細胞判定を実施できる知識の習得にとどまらず、がんの分子病態や治療等、がん診療に関する多面的な観点を有する細胞検査士の養成を目指す。						
修了要件・履修方法	必修科目15単位、選択科目2科目3単位以上を習得すること。						
履修科目等	<必修科目> サイトオンコロジー特論 1単位、次世代がんプロオンコロジーセミナー 1単位、分子生物学入門 1単位、腫瘍分子生物学特論 2単位、臨地マネジメント病理演習 4単位、細胞診断学演習 4単位、腫瘍分子生物学演習 2単位 <選択科目> 腫瘍薬物学特論 1単位、腫瘍放射線医学特論 1単位、がん緩和医療学特論 1単位、コンサルテーション論 2単位、医療統計学特論 2単位、がん医療現場の課題科目 1単位、がん予防推進科目 1単位、新規治療法開発科目 1単位						
がんに関する専門資格との連携	細胞検査士（日本臨床細胞学会）						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	社会人院生にも受講しやすいようにe-learningを併用した講義を用意する。他分野の講義も必修科目としたコースとすることでチーム医療的視点を持たせるカリキュラムとした。						
指導体制	大学院教育の中で研究室を基準とする指導体制を基礎とし各分野を専門する教員が行う講義を中心にカリキュラムを編成したことで、多数の教員による指導を受けられるよう指導する。						
修了者の進路・キャリアパス	修了者は博士前期2年目において修了見込みとして細胞検査士資格試験を受験できる。修了見込みもしくは修了後に資格試験に合格することで、細胞検査士として学会認定される。病院病理検査室や臨床検査機関施設における細胞診検査業務に従事することになり、本コースで習得した知識・技能を活用できる。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
		3	3	3	3	3	15
受入目標人数設定の考え方・根拠	今年度までのがんプロコースの登録者において、例年5名程度の履修者がいるため、受入れ目標人数を5人と設定。						

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	信州大学大学院総合医理工学研究科生命医工学専攻・医学系研究科						
教育プログラム・コース名	遺伝子・細胞治療研究者養成コース（大学院正規課程コース）						
対象職種・分野	医師、歯科医師、薬剤師、検査技師、製薬・バイオベンチャー企業社員など						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	CAR-T療法等のがん免疫療法・遺伝子治療の分子標的・免疫学的作用機序・副作用を理解し実践できる医療人材、新規の遺伝子・細胞治療を研究開発できる基礎・臨床研究医、がんゲノム結果および再生医療等製品の創薬・CMO・CDMO・治験に精通した創薬研究者を養成する。併せて、令和5年度より認定制度が開始された日本遺伝子細胞治療学会の認定医・認定技術士を養成する。						
修了要件・履修方法	<p>&lt;修了要件&gt;必修科目6単位、選択必修科目6単位、コース選択科目は研究特論を含む18単位、計30単位を修得し、研究論文が学位審査に合格すること。</p> <p>&lt;履修方法&gt;e-learning教材、TV会議によるセミナー、演習等で履修する。</p>						
履修科目等	<p>&lt;必修科目&gt;先鋭領域融合研究群最先端研究特講、知財管理特講、社会医工学特論、イノベーションセミナー、他（各2単位）</p> <p>&lt;選択必修科目&gt;免疫学研究方法特論、生化学・分子生物学研究方法特論、人類遺伝学研究方法特論、器官・組織細胞機能研究方法特論、腫瘍学研究方法特論、<u>遺伝子・細胞治療学特講</u>、臨床免疫・感染症学特講、成長・発達医学特講、外科学研究特講、産婦人科学研究特講、他（各2単位）</p> <p>全国規模のe-learning科目〔<u>がんゲノム科目（1単位）</u>、<u>小児・AYAがん科目（1単位）</u>、<u>希少がん科目（1単位）</u>、<u>ライフステージ科目（1単位）</u>、<u>がん医療現場の課題科目（1単位）</u>、<u>がん予防推進科目（1単位）</u>、<u>新規治療法開発科目（1単位）</u>〕</p>						
がんに関する専門資格との連携	認定医・認定技術士（日本遺伝子細胞治療学会）の研修施設として認定。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	日本では遺伝子・細胞治療学に焦点を当てた大学院カリキュラムはきわめて少ない。本コースは、遺伝子・細胞治療の創薬戦略を基礎研究から社会実装までシームレスに修得できる新しい基礎・臨床研究医・創薬研究者養成コースである。本コースでは、遺伝子・細胞治療学の研究手法の講義・演習にとどまらず、知財化、創薬・CMC・CDMO、治験、ベンチャー起業についても、国内第一線の研究者、創薬バイオベンチャー、URAによる講義を行う。米国ベイラー医科大学細胞遺伝子治療研究センターとの人材交流も行う。また、R5年度に新設される日本遺伝子細胞治療学会認定医・認定技術士の養成を目的とする日本初の養成コースである。						
指導体制	再生医療等製品の開発経験が豊富な臨床系教員、がん関連教室の基礎・臨床系教員、がんゲノム医療担当の遺伝学医学教室教員、創薬バイオベンチャーの特任教員、URA知財担当者らが中心となり、多角的な指導を行う。						
修了者の進路・キャリアパス	がん診療連携拠点病院等において、がんゲノム医療、CAR-T療法・免疫チェックポイント阻害治療等のがん免疫療法に精通した臨床研究医として、北信地域におけるがん医療、並びに日本のがん研究を牽引する。又は、再生医療等製品開発を行っている創薬企業の創薬研究者として、日本の医療産業を牽引する。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
		2	2	2	2	2	10
受入目標人数設定の考え方・根拠	年1～2人の遺伝子・細胞治療を研究テーマとする大学院生を指導している実績から、受入れ目標人数を10人と設定した。今後5年間で遺伝子細胞治療認定医・認定技師を5人以上養成し、認定医については長野県内のがん診療連携拠点病院・がん診療病院または長野県立こども病院への配置を、認定技師については全国の大学病院の細胞加工施設・品質検査部門または創薬企業への就職を目標とする。						

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	信州大学大学院医学系研究科						
教育プログラム・コース名	シームレス型がん予防推進認定遺伝カウンセラー養成コース（大学院正規課程コース）						
対象職種・分野	看護師、保健師、助産師、臨床検査技師等の資格取得者 など						
修業年限（期間）	2年						
養成すべき人材像	小児・AYA世代から高齢者まで世代を超えて、個別化予防～がんゲノム医療～遺伝性腫瘍～緩和ケアまでシームレスに見通した上でがん予防を推進できる認定遺伝カウンセラー						
修了要件・履修方法	＜修了要件＞大学院の修了要件30単位を取得し学位論文審査に合格することに加え、「本コース選択科目」33単位、「e-learning科目」2単位を履修すること。						
履修科目等	<p>＜大学院の修了要件＞医科学研究方法論演習8単位ほか、合計30単位</p> <p>＜コース選択科目＞遺伝カウンセリング実習6単位、臨床腫瘍学1単位、がんゲノム医療1単位、遺伝カウンセリング研究8単位、基礎人類遺伝学6単位、医療カウンセリング概論1単位、臨床遺伝学2単位、遺伝医療と倫理2単位、遺伝医療と社会1単位、遺伝サービス情報学1単位、遺伝カウンセリング3単位、<u>シームレスがん医療・支援学1単位</u>（選択必修33単位）</p> <p>＜e-learning科目＞がんゲノム科目1単位、小児・AYAがん科目1単位、希少がん科目1単位、ライフステージ科目1単位（選択）、<u>がん医療現場の課題科目</u>（1単位）、<u>がん予防推進科目</u>（1単位）、<u>新規治療法開発科目</u>（1単位）</p>						
がんに関する専門資格との連携	認定遺伝カウンセラー（日本遺伝カウンセリング学会・日本人類遺伝学会）の研究施設として認定。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	信州大学では平成15年本邦で初めて遺伝カウンセリングコースを設定し、毎年1～3名の学生を受け入れ、今までに25名の認定遺伝カウンセラーを全国（長野県以外では、宮崎県、長崎県、岡山県、大分県、福島県、兵庫県、東京都、千葉県、神奈川県）に輩出してきた。2018～2022年度北信がんプロでは、日本初の「がん診療に詳しい認定遺伝カウンセラーコース」を展開した。本コースはこれをさらに発展させるべく、がんゲノム外来やエキスパートパネルへの参加を活発化させ、がんゲノム医療、遺伝性腫瘍診療の一翼を担う医療人を育成する。						
指導体制	2018～2022年度に開講していた北信がんプロ「がん診療に詳しい認定遺伝カウンセラーコース」では、信州大学医学部遺伝医学教室/附属病院遺伝子医療研究センター、包括的がん治療学教室および小児医学教室の教員が指導にあたった。本コースでは、がんゲノム外来、信州大学内でがんゲノム医療に関する他科の教員および北信がんプロ関係教員からも特色ある診療内容の指導を行う。						
修了者の進路・キャリアパス	認定遺伝カウンセラー資格取得後、北信4県の12のがんゲノム医療拠点/連携病院に勤務し、北信地域がんゲノム医療、遺伝性腫瘍診療の一翼を担う医療人として活躍する。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
		1	1	1	1	1	5
受入目標人数設定の考え方・根拠	例年2人程度の臨床遺伝学を研究テーマとする修士学生を全国から受入れている実績から、受入れ目標人数を1人/年と設定した。今後5年間でがん予防に精通した認定遺伝カウンセラーを5人養成し、全国の大学病院またはこども病院に配置する。						

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	富山大学大学院総合医薬学研究科						
教育プログラム・コース名	がん患者チーム医療修得コース（大学院正規課程コース）						
対象職種・分野	各種医療機関で実際ががん診療に携わる医師、歯科医師、看護師、その他の医療職、医療職以外						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	診断から治療・看取りまで居住地で全医療を受けるがん患者をシームレスに診療するために、多職種との連携を図り、地域施設との連携を図るチーム医療を構築できる人材を養成する。この目的を達成するために地域医療、在宅緩和、チーム医療を行っている実務者が講義を担当する。また、演習では実際の患者の事例検討会やデジタルツールを用いた在宅緩和診療を体験することにより、チーム医療のリーダー育成を目指す。						
修了要件・履修方法	<p>&lt;修了要件&gt;必修科目20単位及び選択科目10単位以上、計30単位以上を修得し、がん患者チーム医療に関する基礎又は臨床研究を行い、学位論文が学位審査に合格すること。</p> <p>&lt;履修方法&gt;e-learning教材、オンライン会議を使用したセミナー、演習等で履修する。</p>						
履修科目等	<p>&lt;必修科目&gt;臨床腫瘍学特論、<u>多職種連携チーム医療学</u>（各1単位）、大学院博士課程 生命・臨床医学プログラムにおける授業科目（18単位）</p> <p>&lt;選択科目&gt;がん外科学特論、がん緩和医療学特論、臨床病理学特論、がん外科学特論、分子腫瘍学特論、分子生物学入門、臨床統計学特論、次世代北信がんプロオネコロジーセミナー、大学院博士課程 生命・臨床プログラムにおけるがんに関する授業科目（各1単位）、<u>がん医療現場の課題科目</u>（1単位）、<u>がん予防推進科目</u>（1単位）、<u>新規治療法開発科目</u>（1単位）</p>						
がんに関する専門資格との連携	がん薬物療法専門医（日本臨床腫瘍学会）の研修施設として認定。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	従来のがん診療は高度先進医療の開発に重点が置かれてきた。しかし、実際の患者の大半は高齢者であり、終末期まで見通した治療戦略が重要となる。そこで、本コースでは高度先進医療を学ぶと同時に、実際の臨床で直面する多面的な問題に取り組む人材育成を目標としている。このため、演習では実際の地域医療に根ざしたカンファレンスに参加し、在宅ケアの演習も設けるなど、今までの大学院教育にない実践面を強化する。						
指導体制	富山県は地方都市であるがゆえに、大学病院であっても地域との結びつきが大都市圏よりも強いという特徴がある。こうした地域とのつながりを利用することにより、診断治療から看取りまでといったトータルケアをシームレスに行える環境にある。こうした活動に実際携わっている大学教員を中心に学生に指導を行い、現場を体験できる指導を行うことができる。						
修了者の進路・キャリアパス	修了者は大学院を卒業する時点で高度な臨床腫瘍医としての能力を有する。学会所属者はそれぞれの学会が授与する専門医資格を取得することが期待される。さらに、本コースで修得したチーム医療のスキルは地元富山県民の診療還元に最大限発揮されるため、県内施設への就職が期待される。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 <small>※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。</small>	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
		2	2	2	2	2	10
受入目標人数設定の考え方・根拠	本学大学院総合医薬学研究科（博士課程）総合医薬学専攻 生命・臨床プログラムへの腫瘍を専門とする入学見込み者数及び第3期における本科コース（医学）の受入れ状況を鑑み、受入れ目標人数を毎年2名と設定した。						

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	富山大学大学院総合医薬学研究科
教育プログラム・コース名	がん治療において地域医療に貢献できる薬剤師および新規がん治療薬開発研究者養成コース（大学院正規課程コース）
対象職種・分野	薬剤師、新規がん治療薬創生研究者
修業年限（期間）	4年
養成すべき人材像	<p>がん治療については、過去10年、多面的に大きな発展をしている。中でも免疫チェックポイント阻害剤は、がん治療の方向性を大きく変化させた。このようなことから、チーム医療の中や地域の薬剤師が適正にがん治療に取り組むことはもちろん重要であるが、がん治療薬に結び付く基礎研究も重要である。そこで、本プログラム・コースにおいては、がん治療において社会をリードできる薬剤師と創薬研究者を養成することを目的とし、共に講義や演習・実習を受けることで、相互の理解を深めることを目的とする。</p> <p>薬剤師養成に関しては、基礎的な事柄は6年制薬学部での教育内容に含まれている。そこで我々は、現在の薬剤師を越える高度薬剤師の輩出を目指す。病院でのがん治療や緩和医療の個別化医療に加え、地域包括ケア制度に策定に伴う在宅での抗がん剤や緩和医療への貢献ができる人材の養成をしたい。特に富山県は、三世帯同居率が高く、制度の整備とともに、病院薬剤師とかかりつけ薬剤師が連携を持って治療にあたる体制が構築されつつあることから、大学院生レベルで、医療現場で演習を行うことは意義の高いことである。また、本総合医薬学研究科を担当する研究室として「がん細胞生物学研究室」もあり、全国薬学部の中でもトップを走る研究活動を行っていることから、それらの教員から講義・演習を受けることで、優れたがん創薬研究者を輩出する。</p>
修了要件・履修方法	<p>&lt;修了要件&gt;必修科目25単位及び選択科目5単位以上、計30単位以上を修得し、学位論文が学位審査に合格すること。</p> <p>&lt;履修用法&gt;授業はe-learningで行う。在宅医療やチーム医療に係る実習については地域病院と共同して実施する。演習科目は富山大学所属の教員等で行う。</p>
履修科目等	<p>&lt;必修科目&gt;分子腫瘍学特論、臨床統計学特論、臨床栄養学特論、先端がん研究特論（各1単位）、がん治療におけるゲノム医療演習、地域包括医療でのがん治療演習、<u>チーム・在宅医療演習</u>（各0.5単位）、大学院博士課程 臨床薬学プログラムにおける授業科目（19単位）</p> <p>&lt;選択科目&gt;分子生物学入門、腫瘍病理学特論（各1単位）、大学院博士課程 臨床薬学プログラムにおけるがんに関する授業科目（各1単位）、<u>がん医療現場の課題科目</u>（1単位）、<u>がん予防推進科目</u>（1単位）、<u>新規治療法開発科目</u>（1単位）</p>
がんに関する専門資格との連携	<p>専門薬剤師（臨床薬理学会）の研修施設として認定。薬学部教員において、日本医療薬学会および日本臨床薬理学会の指導薬剤師が複数名在籍している。第3期までのがんプロ受講者から、複数名のがん専門薬剤師が輩出されている。</p>

<b>教育内容の特色等 (新規性・独創性等)</b>	<p>現在の病院・薬局薬剤師がすでに実施していることのみではなく、大学でしか実施できない高度な内容を含む。講義はe-learning で実施し、受講者が受講しやすいよう対応する。また、がん治療薬新薬創生者の育成を目的とする先端がん研究治療の講義に加え、実習や遺伝子多型の検出、それらへの抗がん薬との治療効果などについて、深く学ぶカリキュラムとする。在宅でのがん治療に参画できるだけの薬剤師としての養成だけでなく、地域で他の職種との連携の要となれるよう本学独自の医療現場での実習も行う予定である。特に、がん罹患者の多くが高齢者であることを考え、日本平均と比較して、高齢化が15年早く進んでいる富山県においては、他地域よりも現実に即した実習が可能である。演習、実習科目は、金沢大学附属病院での実施分も富山大学の大学院生も履修可能として単位認定できるようにし、富山大学での実施分も両大学の大学院生が履修できるようにし、大学間連携を持ち、地域で薬剤師としての医療を支えることを体験する。</p>						
<b>指導体制</b>	<p>本コースの統括は、学術研究部薬学・和漢系 薬物治療学 新田淳美教授が担当する。さらに、地域医療における薬剤師職に関係する実習のために、同実践薬学 田口雅登教授が実習の計画に参画する。また、がん治療へのゲノム医療に関する講義や演習については、同がん細胞生物学 櫻井宏明教授が担当する。</p>						
<b>修了者の進路・ キャリアパス</b>	<p>全国大学病院の薬剤師として勤務し、日本医療薬学会認定のがん薬物療法認定薬剤師を目指す。また、将来的には、がん専門認定薬剤師やがん専門指導薬剤師の取得をする。6年生薬学部卒業後、4年制の薬学専攻の大学院への入学生は全国でも100名前後であり、特に国公立大学卒業生には、将来の大学病院薬剤部長としての期待がなされている。または、厚生労働省等の中央官庁に勤務し、がん治療を含む行政職につき、日本の薬学関連の医療をリードする。</p>						
<b>受入開始時期</b>	<p>令和6年4月</p>						
<b>受入目標人数</b> <small>※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。  <small>※新規に設置したコースに限る。</small></small>	<b>R5年度</b>	<b>R6年度</b>	<b>R7年度</b>	<b>R8年度</b>	<b>R9年度</b>	<b>R10年度</b>	<b>計</b>
<b>受入目標人数設定の考え方・根拠</b>	<p>本学大学院総合医薬学研究科（博士課程）総合医薬学専攻 臨床薬学プログラムへの入学者は4名前後となる見込みである。また、第3期における本科コース（薬学）の受入れ状況を鑑み、受入れ目標人数を毎年1名と設定した。</p>						

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	福井大学大学院医学系研究科統合先進医学専攻						
教育プログラム・コース名	統合型がん医療専門医コース（大学院正規課程コース）						
対象職種・分野	医師						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	がん医療に携わる専門的な知識及び技能に加えて、診療科横断的に腫瘍について学び、高エネルギー医学研究センターや陽子線治療センターを有する本学・本県の特色を活かし、最新のPET、MRIの機能画像診断や陽子線治療に習熟した医師を養成する。さらに緩和ケアについて学ぶことで、病院から在宅までの切れ目のないケアや診断早期からのケアを実践できるようになり、チーム医療のリーダーを養成する。						
修了要件・履修方法	<p>&lt;修了要件&gt; 共通科目18単位、各部門の科目6単位以上、分野専門科目6単位以上を含む30単位以上を取得し、がんに関する研究論文が学位審査に合格すること。なお、腫瘍医学部門の科目においては、腫瘍専門科目（北信がんプロ科目）との読み代えにより、修了要件の単位数に算入する。</p> <p>&lt;履修方法&gt; e-learning教材、Web会議によるセミナー、演習等で履修する。</p>						
履修科目等	<p>&lt;共通科目&gt; 医科学基礎総論（4単位）、実験基礎演習（2単位）ほか2科目          &lt;選択科目&gt; 臨床腫瘍学特論（4単位）、臨床腫瘍学演習Ⅰ（2単位）、臨床腫瘍学演習Ⅱ（4単位）、器官再生生物医学（2単位）、器官再生生物医学演習（4単位）、情報病態解析医学Ⅰ（2単位）、情報病態解析医学演習Ⅰ（4単位）、機能画像医学特論Ⅱ（2単位）、機能画像医学演習（4単位）他          新設する北信がんプロe-learning科目（がん医療現場の課題科目（1単位）、がん予防推進科目（1単位）、新規治療法開発科目（1単位））ならびに従来の北信がんプロe-learning科目（がんゲノム科目（1単位）、小児・AYAがん科目（1単位）、希少がん科目（1単位）、ライフステージ科目（1単位）、がん緩和医療学特論（1単位）、臨床栄養学特論（1単位）、がん医療現場の課題科目（1単位）、がん予防推進科目（1単位）、新規治療法開発科目（1単位））他</p>						
がんに関する専門資格との連携	外科専門医（日本外科学会）、消化器外科専門医（日本消化器外科学会）、内科専門医（日本内科学会）、がん薬物療法専門医（日本臨床腫瘍学会）、病理専門医（日本病理学会）、放射線科専門医ならびに放射線治療専門医（日本医学放射線学会）、麻酔科専門医（日本麻酔科学会）、がん治療認定医（日本がん治療認定医機構）、骨・軟部腫瘍医（日本整形外科学会）等の研修施設として認定。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	従来の統合先進医学専攻 先端応用医学コース 腫瘍医学部門または器官再生医学部門の科目に加えて、北信がんプロ養成プログラムの科目と本学医科学コースの機能画像医学部門（高エネルギー医学研究センター担当）の科目を履修することにより、最新のがん治療と緩和ケアなどの苦痛へのケアを同時に学び、最先端の画像診断能力の知識も修得できる。						
指導体制	緩和医療などチーム医療ならびに臨床腫瘍学に精通した福井大学腫瘍病態治療学講座及び福井大学の様々な診療科の教職員が対応することで集学的がん治療と診療科横断ならびに多職種連携を実践できるようにする。						
修了者の進路・キャリアパス	修了者は、自身の専門分野に加えて、診療科横断的にがんの診断・治療を習得し統合的がん医療を行えるとともに、緩和ケアにも精通することで緩和ケアなどのチーム医療のリーダーとしても拠点病院や地域での活躍が期待できる。これによりシームレスながん医療を行えるようになる。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
		2	2	2	2	2	10
受入目標人数設定の考え方・根拠	県内の5つのがん拠点病院にがん専門医を最低2人ずつ増員配置することを目標にすると、今後6年間で10人養成する。また、過去の大学院志願者数及び入学ニーズ調査から毎年度2人の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を10人と設定。						



## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	金沢医科大学大学院医学研究科生命医科学専攻						
教育プログラム・コース名	がん遺伝子に基づく個別化医療を担うがん専門医療人養成コース（大学院正規課程コース）						
対象職種・分野	医師						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	がんの発生進展に必須のがんゲノム情報を理解し、病理診断をもとにがん遺伝子パネル検査の結果情報に関して、医療関係者に助言が可能ながん専門医療人を養成する。						
修了要件・履修方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・修了要件：博士課程に4年以上在籍し、所定の単位数（30単位）以上を修得し、学位論文審査に合格すること。</li> <li>・履修要件：e-Learning教材、北信がんプロの指定するオンラインセミナー（次世代北信オンコロジーセミナー・多職種連携セミナー）・金沢医科大学病院で行われるエキスパートパネルへの参加、演習等により履修する。</li> </ul>						
履修科目等	<p>主として専攻する科目の講義・演習・実験実習（各4単位、計12単位）、特別研究（6単位）、生命倫理学（1単位）のほか、専門医療人養成コースの授業科目11単位以上</p> <p>&lt;専門医療人養成コースの授業科目：必修科目&gt;  <u>がん医療現場の課題科目</u>（1単位）、<u>がん予防推進科目</u>（1単位）、<u>新規治療法開発科目</u>（1単位）、<u>分子腫瘍学特論</u>（1単位）、<u>分子生物学入門</u>（1単位）</p> <p>&lt;専門医療人養成コースの授業科目：選択科目&gt;  <u>がんゲノム医療学特論</u>（1単位）、<u>小児・AYA・稀少がん特論</u>（1単位）、<u>腫瘍薬物学特論</u>（1単位）、<u>在宅緩和ケア特論</u>（1単位）、<u>臨床腫瘍学特論</u>（1単位）、<u>臨床統計学特論</u>（1単位）、<u>臨床統計学演習</u>（1単位）、<u>腫瘍放射線医学特論</u>（1単位）等</p>						
がんに関する専門資格との連携	金沢医科大学病院は、地域がん診療連携拠点病院に指定されている。また、日本専門医機構の認定する各科の基本となる学会の認定医・専門医の研修施設としても認定されている。本教育コースでは、サブスペシャリティとしてがん薬物療法専門医（日本臨床腫瘍学会）、臨床遺伝専門医（日本人類遺伝学会・日本遺伝カウンセリング学会）、分子病理専門医（日本病理学会）等の養成を重点におく。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	次世代のがん医療を担う人材として、がんゲノム医療の理解とゲノム解析結果の理解と医療関係者への助言が必須の時代となっており、がん死亡増加の中で、分子病理医をはじめがんゲノム医療を実施推進できる医療人の養成を行う。						
指導体制	がん薬物療法専門医、分子病理医、家族性腫瘍をはじめ遺伝学診断・遺伝カウンセラーに精通する専門医等の複数教員により指導する。						
修了者の進路・キャリアパス	本コースで養成された医師は、がんゲノムを理解・実践可能で、多職種からなるチーム医療を連携推進できる卓越した知識・経験をもちあわせる次世代のがん専門医のリーダーとして、地域基幹病院におけるがん医療に貢献する。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
		1	1	1	1	1	5
受入目標人数設定の考え方・根拠	北陸・信州地域の5つのがん拠点病院にがんゲノム医療を実践するがん専門医を最低1人ずつ配置することを目標にする。令和6年度以降5年間で5人受け入れる。また、大学院志願者数の観点から毎年度1人の専門医養成コースの履修者が見込まれるため、受入れ目標人数を1人と設定。						

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	長野県看護大学大学院看護学研究科						
教育プログラム・コース名	ライフステージと共生の包括ケアコース（大学院正規課程コース）						
対象職種・分野	看護師						
修業年限（期間）	正規課程2年 インテンシブコース1年						
養成すべき人材像	がん医療で顕在化している課題は、1つにはがんの発症/治療に伴う全人的苦痛の問題がある。そのための緩和ケアのスペシャリストが必要である。また、小児がんから高齢者までのライフステージに応じた個別ケアのスペシャリストが求められている。さらにがん臨床では様々な医療倫理的問題やコンフリクト（患者・家族と医療者や医療者間で葛藤）が発生しており、その調整者（メディエーター）が必要である。						
修了要件・履修方法	・必修科目38単位以上を履修し、試験に合格すること。						
履修科目等	<必修科目> がん医学特論（2単位）、がん看護学特論－講義（6単位）、がん看護学演習（6単位）、がん看護学実習（10単位、フィジカルアセスメント（2単位）、臨床病態学（2単位）ほか <選択科目> コンサルテーション論（2単位）、家族看護論（2単位）、がんゲノム学特論（1単位）、小児・AYA世代・希少がん特論（1単位）、在宅緩和ケア特論（1単位）、老年医療学特論（1単位）、がんライフステージ演習（1単位）、がん医療現場の課題科目（1単位）、がん予防推進科目（1単位）、新規治療法開発科目（1単位）ほか						
がんに関する専門資格との連携	がん看護専門看護師教育課程を有する教育機関として認定						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	臨床に所属しながら、またどの地域からでも学修できるように、積極的にICTを活用し、利便性と対話型ゼミナールを行っている。						
指導体制	ライフステージに応じたがん看護教育では、小児看護CNS教育課程の教員、老人看護CNS教育課程の教員とのコラボができています。また博士後期課程の院生に、がん看護CNS、家族看護CNSがおり、指導者（TAとして）活用が可能である。						
修了者の進路・キャリアパス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正規課程修了生は認定試験合格後「がん看護専門看護師」となる。</li> <li>・がん認定看護師（CN）を対象にした「がんアドバンス研修：解決志向アプローチ」の講習会では、CNの更新審査の認定ポイントとなる。</li> </ul>						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
		2	2	2	2	2	10
受入目標人数設定の考え方・根拠	長野県の人材育成計画では、がん看護専門看護師養成計画として毎年度2～3名と計画されている。それに則り、毎年度2～3人のがんCNS教育課程への入学志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を2人と設定した。						

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科医学専攻						
教育プログラム・コース名	包括的がん治療医養成コース（インテンシブコース）						
対象職種・分野	医師、歯科医師						
修業年限（期間）	1年（延長可）						
養成すべき人材像	病理診断や放射線治療、核医学治療に加え、腫瘍循環器病や腫瘍腎臓病、老年腫瘍学に精通し、地域で幅広いがん医療を実践する医師及び歯科医師を養成する。						
修了要件・履修方法	<p>&lt;修了要件&gt;北信がんプロフェッショナル授業科目のうち新3科目を含む科目で3単位以上を取得（北信次世代がんプロオンコロジーセミナーまたはがん事例検討演習に3回以上受講が必要）すること。</p> <p>&lt;履修方法&gt;e-learning教材、Web会議によるセミナー、演習等で履修する。</p>						
履修科目等	<p>&lt;選択必修科目&gt;分子生物学入門（1単位）、分子腫瘍学特論、ほか3科目</p> <p>&lt;選択科目&gt;がんゲノム学特論（1単位）、小児・AYA世代・希少がん特論（1単位）、在宅緩和ケア特論（1単位）、老年医療学特論（1単位）、がんライフステージ演習（1単位）ほか5科目および新3科目〔がん医療現場の課題科目（1単位）、がん予防推進科目（1単位）、新規治療法開発科目（1単位）〕</p>						
がんに関する専門資格との連携	腫瘍内科専門医（日本臨床腫瘍学会）、病理専門医（日本病理学会）、放射線治療専門医（日本放射線腫瘍学会）、核医学専門医（日本核医学会）の研修施設として認定。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	がん患者や家族が安心して居住地域で診断から治療・終末期医療までの全医療を受けられるよう、それぞれの医療に必要な知識を包括的に学修できる点に特色がある。特に、放射線治療や病理診断、腫瘍循環器・腎臓病学、老年腫瘍学いたるまで、それぞれの領域の最新情報を受講するところに新規性がある。						
指導体制	放射線治療や病理診断、腫瘍循環器・腎臓病学、老年腫瘍学において医療現場で活躍している講師によるe-learningやWeb会議セミナー等も活用して幅広く能率的に指導する。指導方法の標準化について教務委員会で検討する。						
修了者の進路・キャリアパス	本コースで養成された人材は、診断から治療・終末期医療までの全医療を切れ目なくがん患者の居住地域で行う多施設・多職種チーム医療のリーダーとなる。						
受入開始時期	令和5年11月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	2	6	6	6	6	6	32
受入目標人数設定の考え方・根拠	過去のがんプロの履修ニーズ調査から毎年度5～6人の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を30人と設定。						

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科薬学専攻						
教育プログラム・コース名	次世代がん薬物療法最適化薬剤師コース（インテンシブコース）						
対象職種・分野	薬剤師免許を有し、がん専門薬剤師又は緩和薬物療法認定薬剤師の資格を取得しようとする者。						
修業年限（期間）	1年（延長可）						
養成すべき人材像	がん・緩和薬物療法に関する最新知識を有するとともに、がん研究の最新の研究手法を理解し支援できる人材。がん・緩和薬物療法の安全性・有効性を向上させ、がん患者の多様性に応じた個別化薬物療法の処方支援、有害事象回避し治療最適化ができる人材、または治療法開発に協力できる人材。 がん・緩和領域における地域包括ケアを推進する人材。						
修了要件・履修方法	北信がんプロフェッショナル授業科目2.5単位以上の修得及びオンコロジーセミナーへの出席又は多職種協働型緩和ケアセミナーへの参加。 全国規模のがんプロオンライン教育で整備されたコンテンツ及び本事業が開催するがんゲノムシンポジウムにおける講義教材を利用して自己学習を行うのみならず、オンライン会議システムを利用したオンコロジーセミナー、多職種協働型緩和ケアセミナー等への参加による学習を行う。						
履修科目等	<選択科目>がんゲノム学特論（1単位）、腫瘍薬物学特論（1単位）、在宅緩和ケア特論（1単位）、老年医療学特論（1単位）、北信オンコロジーセミナー（1単位）、 <u>がん薬物療法先端演習（薬剤経済学等）</u> （0.5単位）、多職種協働型緩和ケア演習（0.5単位）、オンコロジーセミナー（0.5単位）、 <u>がん医療現場の課題科目</u> （1単位）、 <u>がん予防推進科目</u> （1単位）、 <u>新規治療法開発科目</u> （1単位）等						
がんに関する専門資格との連携	本コース修了者は、本プログラムを基盤として、日本医療薬学会が認定するがん専門・指導薬剤師や日本緩和医療薬学会が認定する緩和薬物療法認定薬剤師の資格取得が可能となる。また、薬局薬剤師として、日本医療薬学認定の「地域薬学ケア専門薬剤師（がん）」の取得に繋がる。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	本プログラムの特色は、がん患者に対する地域包括ケアにおいて、薬剤師が患者の多様性に応じた個別化薬物療法の実践に要求される疾患に関する知識、薬物療法に関する理解を多面的に得られること。その中で、医師、看護師をはじめとする多職種の方に取り組みに触れられること。更に、がん薬物療法に関して、最近注目される薬剤経済学的手法などの新たな研究手法を理解できることにある。						
指導体制	がん・緩和薬物療法に関連する専門資格を持つか、経験豊富な金沢大学の薬学系教員・薬剤師が、臨床現場等で指導にあたる。						
修了者の進路・キャリアパス	本コース修了者は、本プログラムを基盤として、日本医療薬学会が認定するがん専門・指導薬剤師や日本緩和医療薬学会が認定する緩和薬物療法認定薬剤師の資格取得が可能となる。また、薬局薬剤師として、日本医療薬学認定の「地域薬学ケア専門薬剤師（がん）」の取得に繋がる。また、その資格を活用して、医療機関（病院、薬局）等での多職種連携医療チームで活躍し、若手の指導者として、また、管理職等の中心的役割を担うことが期待される。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
		1	2	3	3	3	12
受入目標人数設定の考え方・根拠	石川県には3つの医療圏があり、5つのがん診療拠点病院を有する。更に、地域診療連携協力推進病院が10箇所ある、それらの病院に、本コース修了者が将来のがん専門薬剤師として補充されること。また、薬局薬剤師にもがん治療に対しても専門的に取り組み、同僚、若手を指導しエビデンス創出に協力できる者が今後必要であることから、本受入れ目標人数を設定した。						

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科保健学専攻						
教育プログラム・コース名	サイコオンコロジーナーシングコース（インテンシブコース）						
対象職種・分野	看護師・看護学						
修業年限（期間）	2年（延長可）						
養成すべき人材像	がんの病態や治療の多様化に伴って複数の専門医療や制度の狭間に生じる当事者のニーズに着目して、トータルケアならびに各専門医療をつなぐための支援を実施し、ライフイベントに伴う生きづらさの緩和やがんの再発予防を担うことができる看護師を養成する。また、がんの症状や治療、サバイバーとしての生きづらさによって生じる不眠・不安・悲嘆・抑うつ・せん妄などの心理学的・精神医学的反応への適切なケアの実施、ならびに当事者の意思決定支援やLifeの質の向上によって、当事者が孤立しないような心理社会的ケアを担うことができる看護師を養成する。						
修了要件・履修方法	・本コースで定める科目について、必修科目5単位、ならびに選択科目1単位以上履修する。						
履修科目等	<必修科目> サイコオンコロジー特論(1単位)、看護心理学特論(2単位)、次世代がんプロセミナー(2単位)、 <選択科目> コンサルテーション論(2単位)、医療統計学特論(2単位)、がん緩和医療学特論(1単位)、腫瘍薬物学特論(1単位)、腫瘍放射線医学特論(1単位)、精神看護学特論(2単位)、慢性・終末期看護技術学特論(2単位)、小児環境発達学特論(2単位)、臨地マネジメント演習(4単位/120時間)、がん医療現場の課題科目(1単位)、がん予防推進科目(1単位)、新規治療法開発科目(1単位)						
がんに関する専門資格との連携	なし						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	看護師のためのサイコオンコロジスト養成コースは前例がなく、看護学と心理学あるいは精神医学の専門性を融合した教育を展開する。受講のしやすさと専門性担保の視点から、e-learningと対面の講義ならびに臨地演習を組み合わせ開講する。						
指導体制	附属病院は、都道府県がん診療拠点病院であり、オンコロジーの専門医や看護師、精神科リエゾンチームの専門医や看護師などが活躍している。大学院専任教員と臨地のがん看護ならびにリエゾン精神看護の専門家が協働して指導を行うことで、サイコオンコロジーの視点を強化した教育が可能である。						
修了者の進路・キャリアパス	本コースの履修によって、サイコオンコロジーの専門的視点が修得でき、がん患者あるいはサバイバーに対するカウンセリングやがん治療・ケアのコーディネーターとしてのキャリアパスが期待される。 がん診療拠点病院ではすでにごん看護に関する認定看護師を有する人が多く、本コースを履修することで、心理社会的ケアスキルのブラッシュアップにつながるため、所属部署のケアの質向上や組織横断的な活動ポジションの獲得の可能性が期待される。						
受入開始時期	令和6年10月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
		2	1	2	1	2	8
受入目標人数設定の考え方・根拠	北信圏域の4つの県がん診療拠点病院ならびに石川県内の4つの地域がん診療連携拠点病院にコース履修者を最低1人ずつ配置することを目標にすると、今後6年間で8人養成する。						

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	信州大学大学院医学系研究科						
教育プログラム・コース名	シームレス型がん予防推進臨床遺伝専門医養成コース（インテンシブコース）						
対象職種・分野	医師（基礎領域の専門医を取得していることが望ましい）						
修業年限（期間）	3年						
養成すべき人材像	小児・AYA世代から高齢者まで世代を超えて、個別化予防～がんゲノム医療～遺伝性腫瘍～緩和ケアまでシームレスに見通した上でがん予防を推進できる臨床遺伝専門医						
修了要件・履修方法	・必修科目（On the job training[OJT]：外来陪席50時間以上/3年、エキスパートパネル参加50時間以上/3年）を履修し、臨床遺伝専門医試験に合格すること。						
履修科目等	<p>&lt;必修科目&gt;On the job training</p> <p>①信州大学医学部附属病院遺伝子医療研究センターの遺伝外来、信州大学医学部附属病院または北信がんプロ関連のがんゲノム医療拠点/連携病院におけるがんゲノム外来の陪席および症例検討会参加：50時間以上/3年</p> <p>②がんゲノム拠点病院/連携病院におけるエキスパートパネル参加：50時間以上/3年</p> <p>&lt;選択科目&gt;</p> <p>信州大学医学部遺伝医学教室および信州大学医学部附属病院遺伝子医療研究センターが関係するオンライン講演会等の受講（約10回/年）、<u>がん医療現場の課題科目（1単位）</u>、<u>がん予防推進科目（1単位）</u>、<u>新規治療法開発科目（1単位）</u></p>						
がんに関する専門資格との連携	臨床遺伝専門医（日本遺伝カウンセリング学会・日本人類遺伝学会）の研修施設として認定。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	がんゲノム医療に積極的に参画し貢献しうる臨床遺伝専門医を養成するためには、遺伝医療およびがんゲノム医療の最前線を体験するOJTが有効である。本コースは両医療に関する充実したOJTを体験できる本邦初のコースである。また、最新の関連情報の学習に関しては積極的にオンラインでの提供を行い、遠隔地に勤務する医師にも参加しやすい環境を整備する。						
指導体制	信州大学医学部遺伝医学教室/附属病院遺伝子医療研究センターでは、2014～2018年度に、文部科学省課題解決型高度医療人材育成プログラム「難病克服！次世代スーパードクターの育成：NGSD（Next Generation Super Doctor）プロジェクト」を展開した。現在、NGSDプロジェクト第2期「ゲノム医療を推進する次世代スーパードクターの育成プログラム」（ <a href="https://www.ngsd-project.jp">https://www.ngsd-project.jp</a> ）を推進している。本コースはNGSDプロジェクトで培ったOJTの指導体制を基盤に加え、北信がんプロ全体の協力を得て、がんゲノム医療全般をシームレスに学べる体制で指導する。						
修了者の進路・キャリアパス	臨床遺伝専門医取得後、北信4県の12のがんゲノム医療拠点/連携病院の臨床遺伝専門医として北信地域がんゲノム医療、遺伝性腫瘍診療のリーダーとして活躍する。						
受入開始時期	令和5年11月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	1	1	1	1	1	1	6
受入目標人数設定の考え方・根拠	例年2人程度、臨床遺伝医取得のための研修を希望する医師を全国から受入れている実績から、受入れ目標人数を1人/年と設定した。今後6年間でがん予防に精通した臨床遺伝医を6人養成し、全国の大学病院またはこども病院に配置する。						

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	富山大学						
教育プログラム・コース名	がんチーム医療実践コース（インテンシブコース）						
対象職種・分野	各種医療機関で実際ががん診療に携わる医師、歯科医師、看護師、その他の医療職、医療職以外						
修業年限（期間）	1年（延長可）						
養成すべき人材像	診断から治療・看取りまで居住地域で全医療を受けるがん患者をシームレスに診療するために、多職種との連携を図り、地域施設との連携を図るチーム医療を構築できる人材を養成する。この目的を達成するために地域医療、在宅緩和、チーム医療を行っている実務者が講義を担当する。また、演習では実際の患者の事例検討会やデジタルツールを用いた在宅緩和診療を体験することにより、チーム医療のリーダー育成を目指す。						
修了要件・履修方法	<p>&lt;修了要件&gt;北信がんプロフェッショナル授業科目において、必修科目2単位及び選択科目5単位以上、計7単位以上を修得すること。</p> <p>&lt;履修方法&gt;全国規模のe-learning教材による学修及びがん患者チーム医療に関する基礎又は臨床研究を行い、オンライン会議によるセミナー又は多職種連携セミナーへの参加により履修する。</p>						
履修科目等	<p>&lt;必修科目&gt;臨床腫瘍学特論、<u>多職種連携チーム医療学</u>（各1単位）</p> <p>&lt;選択科目&gt;がん外科学特論、がん緩和医療学特論、臨床病理学特論、がん外科学特論、分子腫瘍学特論、分子生物学入門、臨床統計学特論、がんゲノム学特論、在宅緩和ケア特論、小児・AYA・希少がん特論、老年医療学特論、腫瘍放射線医学特論、腫瘍薬物学特論、次世代北信がんプロオンコロジーセミナー、<u>がん医療現場の課題科目（1単位）</u>、<u>がん予防推進科目（1単位）</u>、<u>新規治療法開発科目（1単位）</u></p>						
がんに関する専門資格との連携	がん薬物療法専門医（日本臨床腫瘍学会）の研修施設として認定。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	従来のがん診療は高度先進医療の開発に重点が置かれてきた。しかし、実際の患者の大半は高齢者であり、終末期まで見通した治療戦略が重要となる。そこで、本コースでは高度先進医療を学ぶと同時に、実際の臨床で直面する多面的な問題に取り組む人材育成を目標としている。このため、演習では実際の地域医療に根ざしたカンファレンスに参加し、在宅ケアの演習も設けるなど、今までの大学院教育にない実践面を強化する。						
指導体制	富山県は地方都市であるがゆえに、大学病院であっても地域との結びつきが大都市圏よりも強いという特徴がある。こうした地域とのつながりを利用することにより、診断治療から看取りまでといったトータルケアをシームレスに行える環境にある。こうした活動に実際携わっている大学教員を中心に学生に指導を行い、現場を体験できる指導を行うことができる。						
修了者の進路・キャリアパス	修了者のがん診療においてチーム医療を実践し、診断からの看取りまでの仮定をシームレスに実践することが期待される。さらに、本コースで修得したスキルは地域社会の診療において最大限発揮されるため、高度な診療技術を持った地域医療の担い手として期待される。						
受入開始時期	令和5年11月						
受入目標人数	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	1	2	2	2	2	2	11

受入目標人数設定  
の考え方・根拠

富山県内5つのがん拠点病院に関連する医療従事者を2名ずつ配置することを目標とし、また、第3期におけるインテンシブコース（医学）の受入れ状況を鑑み、受入れ目標人数を毎年2名と設定した。



## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	富山大学
教育プログラム・コース名	がん治療において地域・チーム医療の要となる薬剤師養成コース（インテンシブコース）
対象職種・分野	薬剤師
修業年限（期間）	1年（延長可）
養成すべき人材像	<p>薬剤師には、がん治療や緩和医療に加えて、在宅での抗がん剤の使用や緩和医療への関与も求められるようになった。特に北陸や長野県は、三世同居率が高いため、在宅医療の導入体制を整えているとも言える。制度の整備とともに、病院薬剤師と在宅医療を担う薬剤師が連携を持って、治療にあたる体制が構築されつつある。一方で、在宅医療に薬剤師が参画して間もないことから、理論や技術の習得が困難なのが現状であり、経験則で医療が行われていることも否めない。そこで、薬学系大学院が地域を牽引して、要請度の高いチーム医療や在宅医療でのがん治療に対する薬剤師の役割、最近の抗体医薬品やゲノム医療の講義や演習を実施し、がん治療に関して、最先端医療から地域での在宅医療を担える先導的な人材の育成をする。少子高齢化が日本で最も進んでいる地域であることから、地域全体でも、がん医療を薬学的にリードする人材を育成し、チーム医療を介して、がん患者を全人的に支えることができる薬剤師を輩出する。</p>
修了要件・履修方法	<p>&lt;修了要件&gt;北信がんプロフェッショナル授業科目において、必修科目6単位及び選択科目1単位以上、計7単位以上を修得すること。          &lt;履修方法&gt;授業はe-learning及び対面で行う。本プログラムから開始する高齢者における薬物治療やゲノム医療については、本学の専門家が講義をすることから、1年目は講義を実施するが、録画の上、オンデマンドとして金沢大学や他の地域へも公開することも考える。チーム医療や在宅医療に関係する演習については地域病院と共同して実施する。</p>
履修科目等	<p>&lt;必修科目&gt;分子腫瘍学特論、臨床統計学特論、臨床栄養学特論、先端がん研究特論（各1単位）、がん治療におけるゲノム医療演習、地域包括医療でのがん治療演習、<u>チーム・在宅医療演習</u>（各0.5単位）          &lt;選択科目&gt;分子生物学入門、腫瘍病理学特論、がん緩和医療学特論、腫瘍放射線医学特論、腫瘍薬物学特論、臨床腫瘍学特論、小児・AYA・希少がん特論、がんゲノム学特論、在宅緩和ケア特論、老年医療学特論（各1単位）、<u>がん医療現場の課題科目</u>（1単位）、<u>がん予防推進科目</u>（1単位）、<u>新規治療法開発科目</u>（1単位）</p>
がんに関する専門資格との連携	<p>専門薬剤師（臨床薬理学会）の研修施設として認定。薬学部教員において、日本医療薬学会および日本臨床薬理学会の指導薬剤師が複数名在籍している。第3期までのがんプロ受講者から、複数名のがん専門薬剤師が輩出されている。</p>
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	<p>現在の病院・薬局薬剤師がすでに実施していることのみではなく、大学でしか実施できない高度な内容を含む。講義はe-learningで実施し、受講者が受講しやすいよう対応する。在宅でのがん治療に参画できるだけの薬剤師としての養成だけでなく、地域で他の職種との連携の要となれるよう本学独自の医療現場での実習も行う予定である。特に、がん罹患者の多くが高齢者であることを考え、日本平均と比較して、高齢化が15年早く進んでいる富山県では、他地域よりも現実に即した実習が可能である。</p>

指導体制	<p>本コースの統括は、学術研究部薬学・和漢系 薬物治療学 新田淳美教授が担当する。さらに、地域医療における薬剤師職に関係する実習のために、同実践薬学 田口雅登教授が実習の計画に参画する。また、がん治療へのゲノム医療に関する講義や演習については、同がん細胞生物学 櫻井宏明教授が担当する。</p>						
修了者の進路・キャリアパス	<p>日本医療薬学会が認定するがん専門・指導薬剤師や日本緩和医療薬学会が認定する緩和薬物療法認定薬剤師の資格を取得する。受講者の所属している医療提供機関によって異なるが、急性期病院に勤務する者へは、がん化学療法を含むチーム医療に貢献し、また、ゲノム医療を含めた先進的な化学療法の従事し、臨床研究への参画を期待する。慢性期病院や薬局に所属する者は、緩和医療や終末期医療をはじめ、がん患者へのケアを地域で牽引するようにする。実務実習指導薬剤師となり、次世代の人材養成にも貢献する。</p>						
受入開始時期	令和5年11月						
<b>受入目標人数</b> <small>※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。  <small>※新規に設置したコースに限る。</small> </small>	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	1	2	2	2	2	2	11
受入目標人数設定の考え方・根拠	<p>富山県には4つの医療圏があり、8つのがん拠点病院を有する。それらの病院に、本コース修了者ががん専門薬剤師となり、それぞれ要となること、また、薬局薬剤師にもがん治療に対するリーダーシップをとれる者が必要であることから、本受入れ目標人数を設定した。</p>						

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	福井大学医学部						
教育プログラム・コース名	シームレス型緩和医療コース（インテンシブコース）						
対象職種・分野	医師、歯科医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、言語聴覚士、理学療法士、運動療法士、その他の医療スタッフ						
修業年限（期間）	1年（延長可）						
養成すべき人材像	がん治療において早期から適切な緩和医療を行うことで患者のQOLの向上を図るとともに治療成績の向上にも寄与することが期待される。また、終末期がん患者や慢性疾患の終末期を在宅で療養する場合にも地域の医療資源として緩和医療を安全かつ有効に行うことができる医療者を養成する。急性期病院に勤務する医療者から在宅医療に関わる医療者又は地域の調剤薬剤師、その他地域の医療者が対象となる。						
修了要件・履修方法	<p>&lt;修了要件&gt;必修科目と選択科目（e-learning）計3単位を履修すること。演習としてがんプロオンコロジーセミナーにおける症例検討会に2回以上参加すること。演習は国の定める緩和ケア研修会の受講をこれにあてることができる。</p> <p>&lt;履修方法&gt;e-learning教材、Web会議によるセミナー、演習等で履修する。</p>						
履修科目等	<p>&lt;選択科目&gt;  がん医療現場の課題科目（1単位）、がん予防推進科目（1単位）、新規治療法開発科目（1単位）、従来の北信がんプロe-learning がん緩和医療学特論（1単位）、在宅緩和ケア特論（1単位）、臨床栄養学特論（1単位）のうちから2単位</p> <p>&lt;演習科目&gt;  がんプロオンコロジーセミナーなど演習対象の各種web研修会に2回以上参加する。又は国の定める緩和ケア研修会の受講。</p>						
がんに関する専門資格との連携	緩和医療専門医（日本緩和医療学会）の研修施設として認定。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	診療科、職種を超えたシームレスな連携を行うことが出来る医療者を養成する。また、北陸地域で用いられている在宅緩和医療バスを用いて、病院から在宅へのシームレスな連携を行うための医療者を養成する。						
指導体制	北陸信州の大学緩和ケアチームと日本緩和医療学会専門医、認定医が中心に教育を行う。日本緩和医療学会緩和ケア研修会が研修をサポートする。						
修了者の進路・キャリアパス	コース修了者は、医師では施設の緩和ケアチーム医師、緩和ケア病棟医師、地域緩和ケアチームのリーダーとしての活躍が期待できる。また、日本緩和医療学会の専門医を目指す為の教育を提供できる。医師以外のスタッフでは、地域緩和ケアチームのスタッフとして期待される。						
受入開始時期	令和5年11月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	2	12	12	12	12	12	62
受入目標人数設定の考え方・根拠	県内のがん拠点病院を含むがん治療を行う病院での緩和医療の強化を図る。対象となる職種が多岐にわたるために今後6年間で60人養成する。受入れ目標人数を60人と設定。						

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	福井大学医学部						
教育プログラム・コース名	シームレス型栄養管理コース（インテンシブコース）						
対象職種・分野	医師、歯科医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、言語聴覚士、理学療法士、運動療法士、その他の医療スタッフ						
修業年限（期間）	1年（延長可）						
養成すべき人材像	栄養学は医療の基本であり、がん医療においても必須の医療技術である。近年はがん悪液質やサルコペニアへの対応も求められ、様々な状況下でがん治療の継続を図るには臨床栄養の知識を持った医療者を養成する必要がある。在宅医療においても、経口摂取の維持、経管栄養、静脈栄養など患者の状態に最も適した栄養管理を安全に行う事が求められ、地域の医療資源として病院から在宅へ移行しても栄養管理を継続できる医療者も同時に養成する必要がある。この研修は、医療の現場でのNST活動の活性化にも繋がる。						
修了要件・履修方法	<p>&lt;修了要件&gt;必修科目と選択科目（e-learning）計3単位を履修すること。演習としてがんプロオンコロジーセミナーにおける症例検討会に2回以上参加すること。演習は日本臨床栄養代謝学会認定教育施設にて20時間以上の研修又は以下の研修を持ってこれに代えることができる。医師にあっては、日本臨床栄養代謝学会/日本外科栄養代謝学会の開催するNST医師・歯科医師教育セミナーを受講。医師以外のスタッフは、日本臨床栄養代謝学会の開催するNST専門療法師資格セミナーを受講。</p> <p>&lt;履修方法&gt;e-learning教材、Web会議によるセミナー、演習等で履修する。</p>						
履修科目等	<p>&lt;選択科目&gt;がん医療現場の課題科目（1単位）、がん予防推進科目（1単位）、新規治療法開発科目（1単位）、従来の北信がんプロe-learning 臨床栄養学特論（1単位）、がん緩和医療学特論（1単位）、在宅緩和ケア特論（1単位）のうちから2単位</p> <p>&lt;演習科目&gt;がんプロオンコロジーセミナーなど演習対象の各種web研修会に2回以上参加する。又はNST実習（20時間）または、医師：日本臨床栄養代謝学会の開催するNST医師・歯科医師教育セミナーを受講。医師以外：日本臨床栄養代謝学会の開催するNST専門療法師セミナー受講。</p>						
がんに関する専門資格との連携	認定医・指導医ならびに臨床栄養代謝専門療法士（がん専門療法士）（日本臨床栄養代謝学会）の研修施設として認定。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	がん医療を推進する上で栄養管理は最も重要な技術の一つである。周術期合併症の軽減、化学療法の継続、がん悪液質への移行の予防などを理解し行える医療人を育成出来る。また、終末期のQOLを高く維持するためにも管理技術の習得を要する。拠点病院と在宅のスタッフがこのインテンシブコースを履修することで、シームレスな在宅移行が可能となる。また、地域の各職種の栄養管理技術がレベルアップすることで、安全かつ満足度の高いがん医療が実現できる。						
指導体制	福井大学医学部附属病院をはじめ、各大学病院の栄養サポートチームが中心となる。日本臨床栄養代謝学会認定教育施設の研修サポートを受ける事ができる。また欧州臨床栄養代謝学会のLLL Diplomaならびに講師資格を持つ者も指導に当たる。						
修了者の進路・キャリアパス	コース修了者は、医師ではNSTのチェアマン、地域NSTの指導者として期待される。医師以外のスタッフは、日本臨床栄養代謝学会認定NST専門療法士、さらに臨床栄養代謝専門療法士（がん専門療法士）資格の取得をめざすことができる。がん治療における栄養管理に深く関わる事が期待できる。						
受入開始時期	令和5年11月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	2	12	12	12	12	12	62
受入目標人数設定の考え方・根拠	県内のがん拠点病院を含むがん治療を行う病院でのがん治療における栄養管理の強化を図る。対象となる職種が多岐にわたるために今後6年間で60人養成する。受入れ目標人数を60人と設定。						

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	金沢医科大学大学院医学研究科生命医科学専攻						
教育プログラム・コース名	分子病理の視点からゲノム個別化医療を推進するがん専門医療人養成コース（インテンシブコース）						
対象職種・分野	医師						
修業年限（期間）	1年（延長可）						
養成すべき人材像	がんの診断・治療において必須であるゲノム情報を理解し、さらに、病理診断結果をはじめ、小児・AYA世代・希少がんを含むがん遺伝子パネル検査の結果情報を理解し医療関係者に助言が可能ながん専門医を養成する。						
修了要件・履修方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・修了要件：北信がんプロフェッショナル授業科目のうち、選択必修科目から1単位以上を含む3単位以上の修得及び北信がんプロの指定するオンラインセミナー（次世代北信オンコロジーセミナー・多職種連携セミナー）へ3回以上参加すること。</li> <li>・履修要件：e-Learning教材、オンラインによるセミナー、演習等により履修する。</li> </ul>						
履修科目等	<p>&lt;選択必修科目&gt;  <u>がん医療現場の課題科目（1単位）</u>、<u>がん予防推進科目（1単位）</u>、<u>新規治療法開発科目（1単位）</u></p> <p>&lt;選択科目&gt;分子腫瘍学特論（1単位）、分子生物学特論（1単位）、がんゲノム医療学特論（1単位）小児・AYA・希少がん特論（1単位）、ライフステージに応じたがん医療特論（1単位）、次世代北信オンコロジーセミナー（1単位）、多職種連携セミナー（1単位）</p>						
がんに関する専門資格との連携	がん薬物療法専門医（日本臨床腫瘍学会）、臨床遺伝専門医（日本人類遺伝学会・日本遺伝カウンセリング学会）、分子病理専門医（日本病理学会）等の研修施設として認定						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	次世代のがん医療の高度化を踏まえ、がん医療の地域連携可能な人材育成が欠かせない。とくに、小児・AYA世代・希少がんをはじめ遺伝性腫瘍をも理解できるゲノム医療に精通したがん専門医の養成は、拠点病院と地域医療におけるシームレスな医療連携を可能にする。						
指導体制	がん薬物療法専門医・分子病理医が複数在籍し、がんゲノム医療連携施設としてがん遺伝子パネル検査に基づきエキスパートパネルを実践している。さらに、臨床遺伝専門医施設でもあり、家族性腫瘍をはじめ遺伝学診断・遺伝カウンセラーに精通する専門医が、様々ながん種に対する集学的治療を行うために必要なスキルをe-learning又はシンポジウムで講義する。						
修了者の進路・キャリアパス	本インテンシブコースで養成された医師は、がんゲノム情報を理解し医療者への説明・治療の紹介・実践可能で、多職種からなるがんチーム医療を連携推進できる次世代のがん医療のリーダーとして、地域の連携する基幹病院におけるがんゲノム医療に貢献する。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
		1	1	1	1	1	5
受入目標人数設定の考え方・根拠	都道府県内の5つのがん拠点病院にがんゲノム医療を実践するがん専門医を最低1人ずつ配置することを目標にすると、今後5年間で5人養成する。また、過去の大学院志願者数及び入学ニーズ調査から毎年度1人の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を1人と設定。						

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	長野県看護大学大学院看護学研究科						
教育プログラム・コース名	IPW包括的緩和ケアコース（インテンシブコース）						
対象職種・分野	看護師、医師、薬剤師、その他の医療職、医療職以外						
修業年限（期間）	1年（延長可）						
養成すべき人材像	がん医療で顕在化している課題は、がんサバイバーに様々な治療および療養の意思決定が必要とされ、とりわけACPでは医療倫理的問題が多発する。さらに社会、家族の複雑化の中で患者・家族の間や、医療者と患者・家族間でコンフリクト（葛藤、軋轢、齟齬）が発生している。こうしたことに多職種協働で対応できるように、各種コーディネーターやメディエーターの人材養成が必要である。						
修了要件・履修方法	IPW包括的緩和ケアコース受講し、受領証を得ること。						
履修科目等	①IPW包括的緩和ケア事例検討会に参加すること ②がんプロ公開講座（e-learningの科目）を科目を学修すること 「がん医療現場の課題科目（1単位）」、「がん予防推進科目（1単位）」「がんゲノム学特論（1単位）」「小児・AYA世代・希少がん特論（1単位）」、「在宅緩和ケア特論（1単位）」「がんライフステージ演習（1単位）」、「がん医療現場の課題科目（1単位）」、「がん予防推進科目（1単位）」、「新規治療法開発科目（1単位）」ほか						
がんに関する専門資格との連携	がん看護専門看護師教育課程を有する教育機関として認定						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	仕事に従事しながら、またどの地域からでも学修できるように、積極的にICTを活用し、利便性と対話型ゼミナールを行っている。						
指導体制	長野県看護大学大学院は、金沢大学（小児看護）、山梨県立大学（がんCNS）、聖隷クリストファー大学（がんCNS）と、合同ゼミナールを行っている。また、長野県内の信州大学病院をはじめとした「がん診療拠点病院」の看護部、金沢大学病院の看護部とも連携しており、指導者を得られやすい。						
修了者の進路・キャリアパス	<ul style="list-style-type: none"> <li>「IPW包括的緩和ケア事例検討会」に参加した人には「参加証」を発行する。これらは各種の資格者の認定ポイントとなる。</li> <li>がん認定看護師（CN）を対象にした「がんアドバンス研修：解決志向アプローチ」の講習会では、CNの更新審査の認定ポイントとなる。</li> </ul>						
受入開始時期	令和5年11月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	10	20	20	20	20	20	110
受入目標人数設定の考え方・根拠	長野県内の信州大学病院をはじめとした「がん診療拠点病院」の看護部、金沢大学病院の看護部、金沢大学保健学系と連携しており、受講者確保ができる。						

# 「北信のシームレスながん医療を担う人材養成」



## 北信地域におけるがん医療の特徴

- 全国と比較し15年以上進んだ**少子高齢化社会**
- **診断から治療・終末期医療まで、全医療を居住地域で受ける**患者が多い
- **密接な連携**: 4県全てのがん拠点病院・医師会、がんプロ履修者が設立した患者会との連携

実績を活用し  
本事業へ発展

- ・ AYA世代がん患者ケア実現
- ・ チーム医療実現のための多施設・多職種連携
- ・ 地域への人材の定着

次世代北信がんプロ：金沢大、信州大、富山大、福井大、金沢医大、長野県看護大

## 3期北信がんプロの成果



- 1) 正規課程充足率145%の達成
  - 2) がん関連資格取得者49名の輩出
  - 3) データベース事業による課題の抽出
- AYA世代がん患者のケア（精神的支援、二次発がん予防を含む）が特に必要

顕在化した北信地域の  
人材養成課題

：診断から治療・終末期医療まで質の高い医療を患者の居住地域でシームレスに提供する多職種チーム医療人材の養成

(がん予防・検診、病理診断、放射線・核医学治療、在宅緩和ケア等)  
専門分野以外の最新情報も学修した人材を養成し  
患者が必要とする医療を速やかに提供する体制を確立

課題に対応する人材養成  
コースを多職種対象に新設

各大学の強みを合わせた相互補完的教育コース  
正規課程14コース、インテンシブ10コース

テーマ①  
医療現場の顕在化課題への対応

在宅終末期医療、放射線・核医学治療、病理診断、腫瘍循環器・腎臓病学、老年腫瘍学等に習熟した人材を養成  
緩和ケア・在宅緩和医療（富山大）、病理診断（金沢医大）  
栄養管理・緩和ケア・在宅医療（福井大）

- 医師・歯科医師
- 看護師・多職種
- 医学物理士・放射線技師

がん看護専門看護師養成（長野県看護大）  
医学物理士・放射線技師（金沢大）、細胞検査士養成（金沢大）

テーマ②  
がん予防の推進

データベース事業で必要性が示されたAYA世代がん患者のケア、高齢者のがん予防等を担う医師、遺伝カウンセラー、サイコオンコジスト等を養成  
次世代がん予防（金沢大）

- 医師・歯科医師
- 看護師・多職種

遺伝カウンセラー（信州大） 遺伝カウンセラー（金沢大）、サイコオンコジスト養成（金沢大）

テーマ③  
新たな治療法開発

新規がん免疫療法や個別化医療開発、副作用対策を担う専門人材、研究者を養成  
新規CAR-T開発（信州大）、最適個別化医療（金沢大）  
副作用対策・最適個別化医療（金沢大、富山大）

- 医師・歯科医師
- 薬剤師

多施設・多職種連携／チーム医療  
次世代北信オンコロジャーセミナー  
多職種協働型緩和ケアセミナー  
大学院生交流セミナー

## 連携体制

### 患者会

患者目線の医療立案  
がんプロ履修者が設立したColors等と連携

金沢大がん進展制御研究所  
WPI Nano生命科学研究所

がんの基礎および臨床研究・教育

4県の  
全がん拠点  
病院・医師会

がんデータベース事業の  
継続・発展、  
合同市民公開講座

### 医師・歯科医師

【強み】核医学診療、地域との協力体制  
【強み】認定遺伝カウンセラー養成実績  
在宅医療、緩和ケア  
地域・施設間格差解消  
Webケアマニュアル

### 地域内 多職種連携

がん教育  
予防・診断  
ゲノム医療  
集学的治療  
緩和ケア  
副作用対策  
精神的支援  
栄養管理  
在宅医療  
終末期医療  
新規治療開発

### 薬剤師

【強み】がん専門薬剤師養成体制

【強み】核医学診療科と連携した人材養成

看護師・  
遺伝カウンセラー・  
各種コーディネーター

### ベイラー医科大等

国際シンポジウム、ファカルティ・ディベロップメント  
研修、人材交流

### 国立

がん研究センター

連携協定・遺伝子解析

がん研究会化療センター

人材交流

### 他の がんプロチーム

東北大、九州大チーム等  
と合同セミナー

学長連絡協議会が進捗管理

〈養成する人材像〉

患者の居住地域で診断から治療・終末期医療まで、シームレスに提供できる多施設・多職種連携医療人材

〈おもな達成目標〉

- 受け入れ目標人数  
正規課程 157名  
インテンシブ 319名
- がん関連資格取得者 ≥ 50
- 履修者の地域医療機関への定着割合 50%以上

〈本事業のゴール〉

全てのがん患者と家族が安心して全医療を居住地域で速やかに受けることができる医療を担う人材育成モデル